令和6年度～令和8年度　文部科学省研究開発学校

「40分授業5時間制」を生かした自己調整力を高める取組を重視した教育課程の開発

令和7年度　研究主題

児童の粘り強さと自己調整力の育成
～国語科指導を通して～

はじめに

目黒区立駒場小学校長　秋山 美栄子

目黒区では、文部科学省研究開発学校の指定を受け、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図るために、「40 分授業午前５時間制」で生み出した時間を活用した、児童の自己調整力を高める取組を重視した教育課程の編成・実施についての研究開発を進めています。その趣旨を踏まえつつ、本校では、質の高い「駒場ＢＲＡＮＤ」の教育活動を展開していくためには、各教職員の授業力を高め、授業改善を進めることが欠かせないことであると考え、校内研究に取り組んできました。

今年度は、国語科を中心として各教科の授業を実施する際に、課題や学習方法、学ぶペース等を児童自身が選択できる場面を可能な限り設けること、そして、本校の特色として生み出した時間を活用して行っている「こま研」「プランニング」「マイプラン学習」のあり方を工夫・改善することに取り組んでまいりました。

ここに、今年度の校内研究を振り返る一助として、取組内容を集録にまとめることにいたしました。各教科における自己選択学習の研究は緒に就いたばかりであり、まだ課題山積の段階です。教職員一同、さらに努力をしてまいりますので、今後とも皆様にご指導を賜りたく、お願いいたします。

令和８年３月３１日

目黒区立駒場小学校
〒153－0041　東京都目黒区駒場3丁目11－13
〔電話〕03－3467－4461
〔FAX〕03－3465－5987
〔メール〕mekmabeh@meguro.ed.jp

目 次

〇学校グランドデザイン 2

〇研究構想図 4

〇研究授業（学習指導案・成果と課題）

・低学年分科会 5

・中学年分科会 14

・高学年分科会 21

〇プランニング 28

〇マイプラン学習 29

〇こま研 30

〔資料〕こまば学び塾通信 31

令和７年度　目黒区立駒場小学校　学校グランドデザイン

Research：各種調査等による実態

学校の実態	児童の実態	保護者・地域の実態
・１３学級 ・児童数３５０名 ・教員　　１８名 （男７　女１１） ・主幹（２） ・主任（１０） ・教諭（６） ・平均年齢３９歳 ※令和７年４月末現在	（１）区学力調査：どの学年・どの教科とも平均達成率は概ね８割を超え、区平均と比べて同等かやや上回っている全国平均を上回っている。特に、第６学年が高い。 （２）学校評価アンケート：低・高学年ともに、昨年度を下回る項目がいくつかあった。落ち着いた生活については児童自身も課題ととらえている。 （３）体力調査：全体的に跳力や投力に課題がある。 （４）進路：毎年、国立や私立、都立中学校への進学希望者が多く、60%以上の児童が進学する。通塾率も高い。	・地域には卒業生も多く、開校 90 周年行事に関して協力的な方が多かった。 ・学校評価アンケート結果において、保護者の肯定的評価は全項目 80%以上で、昨年度よりも大幅に上昇している。 ・学校評価アンケートによる地域からの肯定的評価は下がったが、「落ち着いて生活している」以外は９割前後を維持している。

校長の経営方針

■学校経営理念【みんなの「誇り」である学校づくり】

○人と人との関わりを大切に、歴史、文化、自然環境に恵まれた「駒場に学ぶ子」であることに誇りと自覚をもたせ、「よりよい学校生活は自分たちで創る」意識を高める。また、地域の方に関わっていただく機会の創出と情報発信に努め、家庭、地域と共に歩む学校を目指す。

■午前５時間制―40 分授業で実践すること

○『生活指導基準』に基づいた共通指導による授業規律の徹底
○主体的・対話的で深い学びを保証する『教師力』の向上
○学校裁量の時間を使った「こま研」と「マイプラン学習」の実施
○ＯＪＴ研修体制の強化による人材育成（「こまば学び塾」の実施）

目指す児童像

新学習指導要領を踏まえ、「生きる力」の３つの柱である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の視点から、子どもたちがこれからの時代を生きていくために必要な資質や能力をより明確にするために以下の３点を教育目標（目指す児童像）とする。

○すすんで学ぶ子
○思いやりのある子
○健やかな子
～こまばのまちとともに～

指導の重点

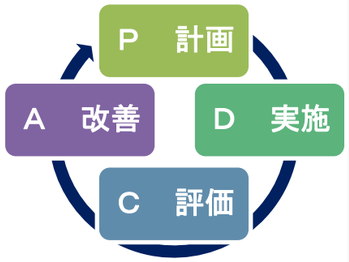
学習指導	生活指導
○カリキュラム・マネジメントや体験的な活動を重視した単元指導計画の立案 ○学習のめあての明確化、見通しや振り返りの重視 ○ICT を効果的に活用した授業展開の工夫	○生活規律に関する重点項目の徹底 ○アンケート実施による不登校・いじめ対応（早期発見・未然防止） ○学習用情報端末使用にかかる「タブレットルール」に関する繰り返しの指導

午後の活用

児　童	教職員
○金曜日６校時に、課題や方法を自己選択する探究学習「こま研」を行う。 ○プランニング(金曜日)の時間に、プランニングシートを活用して、１週間を振り返り、次週の見通しをもつ。 ○教科に関する自己選択短時間学習「マイプラン学習」を週２回×5ヶ月行う。	○授業準備と教材研究の時間の確保 ○職員会（月１回水曜日に設定） ○毎週木曜日に生活指導夕会（生活指導共有の場を確保） ○学年会、ＯＪＴ研修(こまば学び塾)、ＩＣＴ研修の充実

改善検討組織

○主幹会
（週１回の管理職・教務主任・生活指導主任とのミーティング）
○企画会
○三部会（研究・生活指導・特別活動）
○教科・教科外部会
○学年会



対象	評価指標	目標値
児童	区学力調査（学力）	各教科達成平均値　８５%以上
	区学力調査（意識）	「学校の授業はよく分かりますか」に対する肯定的回答平均値　９０%以上
	学校評価アンケート	「学校の勉強はわかりますか。」に対する肯定的回答平均値　９０%以上
教員	学校評価アンケート	【教員の働き方改革】に対する肯定的回答平均値　８５%以上
保護者	学校評価アンケート	教育活動全般に対する肯定的回答平均値　８５%以上

午前５時間制 一単位時間４０分授業を生かすＰＤＣＡ

駒場ＢＲＡＮＤの教育活動

【学習指導】

○学習指導要領の趣旨に即した授業と確実な時数確保
（主体的・対話的で深い学び→振り返りの重視）
○高品質な４０分授業の構築
・発問の精選、時間配分の検討　・めあての明確化
・体験的な活動をできるだけ取り入れた単元構成
○ICT を活用した効率的な授業の構築
○カリキュラム・マネジメントの推進
・教科等横断的な指導計画の作成・実施
・地域資源（環境、人材等）の積極的な活用

【生活指導】

○共生・共助社会につなぐ人権教育の充実
・規範意識の強化
・時と場に応じた適切な行動についての指導
（あいさつ、話の聞き方、言葉遣い、身だしなみ等）
⇒思いやりの心の育成、他者意識の向上
⇒いじめゼロへ
○チャイムや集合時刻への意識強化
⇒４０分間の授業時間確保の徹底
○i-check の分析と有効活用（保護者と共有、方向性の確認）

４０分授業を効果的なものにするために

○生み出された時間を使った授業の準備と教材研究
⇒OJT 研修（含：こまば学び塾）による指導力の強化と指導内容のデータ共有
○働き方改革の推進（毎月曜日の学年会等の時間の確保）
○効率的・効果的な会議の実施　⇒　三部会→企画会を通した提案を行う。
⇒　ペーパーレス化、校務データの共有化　　など
○ＩＣＴ活用スキルの強化と情報モラル教育の充実　　○生活指導の充実

学校裁量の時間

○『こま研』…年間約３０回の自己選択による探究学習の時間
○『プランニング』…プランニングシートをもとに、各児童が１週間の学習の見通しをもち、目標を立てたり振り返りをしたりする時間
○『マイプラン学習』…課題の自己選択による教科学習
○『その他』…個々の多様な幸せと社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指した、安心安全な学校（教室）づくりに資する活動

特別活動の充実

○学校行事を通した全校の一体感の醸成
○各学級の合言葉（目標）の決定と適切な振り返り、教室環境の整備
○学級活動や委員会活動等における自発的・自治的な活動の重視
○あおぞら班やクラブ活動等異年齢集団活動の重視

駒場ＰＲＩＤＥの醸成

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
標準授業時数	８６５	９３０	９８０	１０１５	１０１５	１０１５
行事時数	３５ １/２	３３	３８	３５	５７ １/２	６５ １/２
学校裁量（こま研）	３０	３０	３０	３０	３０	３０
（マイプラン・プランニング）	２	７	３２ １/２	３３	３４	３４ １/２
（その他）	３６ １/２	２０ １/４	２８ １/４	２９ ３/４	３１ １/２	２３ １/２
委員会・クラブ				１１	２２	２２
授業総時数	９６９	１０２０ １/４	１１０８ ３/４	１１５３ ３/４	１１９０	１１９０ １/２

各学年の週当たりコマ数

１年	２年	３年
２５	２６	２８
４年	５年	６年
２９	２９	２９

自分から学ぶ姿勢の確立

学校裁量の時間の使い方について

□こまば個人研究『こま研』を設定し、自分で課題を決めて粘り強く探究していく個人内研究学習を年間 30 回程度行う。原則として、1､2 年生は水曜日の５校時、３年生以上は全教職員で対応できるように金曜日の６校時に設定する。

□3 年生以上は「プランニング」の時間(20 分間)を金曜日に設定し、１週間の見通しをもって、家庭学習や学習用具の準備を含め、主体的かつ計画的に学習に取り組むとともに、しっかりと振り返る環境を整え、自己認知力や自己調整力の育成を図る。

□５，６，９，１，２月の火・木曜日の短時間学習(20 分間)を、自己選択教科学習を行う「マイプラン学習」とする。個別最適な学びを保証し、自己認知力や自己調整力を育成する。（１年生は１月～、２年生は９月～）

□生活全般を通して、主体的に考え、行動する児童を育成するために、特別活動の充実を図る。特に、学級活動や児童会活動等において、問題を発見し、その解決に向けて協働して取り組む経験をできる限り多く積ませるようにする。

週時程表40分授業(第5･6学年)

		月	火	水	木	金
登校時間	8:10～8:15	登　校				
朝の活動	8:20～8:30	朝読書	朝読書	朝読書	朝読書	朝読書
朝の会	8:30～8:35	朝の会				
1校時	8:35～9:15	1	2	3	4	5
2校時	9:20～10:00	6	7	8	9	10
3校時	10:05～10:45	11	12	13	14	15
中休み	10:45～11:00	中休み				
4校時	11:05～11:45	16	17	18	19	20
5校時	11:50～12:30	21	22	23	24	25
給食	12:30～13:15	給食				
清掃など	13:15～13:30	昼会 13:20～13:40	清掃	帰りの会	清掃	
昼休み	13:30～13:45		昼休み	委員会 13:30～14:10 クラブ活動 13:30～14:30	集会 昼休み	昼休み
6校時	13:50～14:30	26 13:40～14:20	27		28	プランニング 13:50～14:10
短時間学習	14:30～14:50		マイプラン		マイプラン	29(こま研) 14:10～14:50
帰りの会	14:50～15:00	帰りの会 14:20～	帰りの会		帰りの会	帰りの会
下校	15:00	下校 14:30	下校 15:00	最終下校 14:30	下校 15:00	下校 15:00
最終下校	15:45	追加事項 マイプラン学習は5～7月、10月～2月に実施				

◆令和７年度　目黒区立駒場小学校　研究構想図◆

国語科の言葉による見方・考え方
「自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること」

学校教育目標
〇すすんで学ぶ子
〇思いやりのある子
〇健やかな子

児童の課題
〇学習の能力差が大きい
〇話合いや考えを深めることが苦手である
〇苦手なことを避けようとする児童が多い

育てたい児童像
〇課題を見付け、自ら進んで追究しようとする児童
〇解の出ない不安や不確実な状態の中でも、粘り強く取り組みを続けられる児童
〇「できたこと」や「できなかったこと」など、自分自身を的確に振り返ることのできる児童

＜自己調整力＞
児童が自己の現状や課題を認識し、最適な学び方を見通す→実行する→振り返る をしながら学ぶ力

＜研究主題＞
児童の粘り強さと自己調整力の育成
～国語科指導を通して～

（低学年の目指す児童像）
・教示された学習方法の中から選択し、課題解決できる児童

（中学年の目指す児童像）
・これまでの自己の経験や他者の学び方を参考にしながら、学習方略を選択し、課題解決できる児童

（高学年の目指す児童像）
・学習内容や理解度に合わせて、学習方略を新たに形成したり、選択したりし、課題解決できる児童

＜研究の仮説＞
国語科の学習において、学習内容や学習方法を選択しながら、振り返りを重視した指導を工夫することにより、自己調整力を育成することができるであろう。

研究の視点①
「言葉による見方・考え方を働かせる」
児童が言葉への感覚を高められる内容や場の工夫

研究の視点②
「学習する内容や学習方法の選択」
児童が自己選択できる教材や活動の場を設定する工夫

研究の視点③
「振り返り」
児童が実行したことを評価し計画を再構築できるようにする工夫

第１学年国語科学習指導案

日　時　令和７年11月10日（月）
第６校時13：40～14：20
対　象　第１学年１組　33名
授業者　山田　将太
場　所２階第１年１組教室

児童の粘り強さと自己調整力の育成
～国語科指導を通して～

１　単元名　かきかたをしって、わかりやすいずかんをつくろう
教材名　「じどう車くらべ」「じどう車ずかんを つくろう」（光村図書　こくご一下）

２　単元の目標

（１）　じどう車くらべ

・事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知識及び技能）
・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思考力、表現力、判断力等）
・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思考力、表現力、判断力等）
・進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明したいときにいかしたいことを見付けようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

（２）　じどう車ずかんを つくろう

・事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知識及び技能）
・事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思考力、表現力、判断力等）
・分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気を付けながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。（学びに向かう力、人間性等）

３　単元の評価規準

（１）　じどう車くらべ

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①　問いと答えの関係について理解している。 ②　「車」と「仕事・つくり」の関係を理解している。 ③　順序について理解している。	①　それぞれの自動車ついての説明が書かれていることを捉えている。 ②　文章の重要な語や文を見付けている。	①　進んで説明を読もうとしている。 ②　順序に気を付けて読もうとしている。

（２） じどう車ずかんを つくろう

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 内容のつながりについて理解している。 ② 書き方の順序について理解している。	① 順序を意識して、簡単な構成を考えている。	① 分かりやすい説明の仕方に興味をもっている。 ② 自動車図鑑作成に向けて、見通しをもって活動している。

４ 教材観

（１） 説明的文章に関するこれまでの学び

本学級では６月に「つぼみ」９月に「うみの かくれんぼ」を学習している。以下に既習事項を示す。

つぼみ	うみの かくれんぼ（１０月下旬に学習します）
① 題名には、これから何が話題になるのかが書かれている。 ② 問いの文があったら、答えがあるかもしれないから探してみる。	① 最初に何を話すか伝えている。（話題提起） ② 重要な語句に着目する。

（２） 学ばせたい内容

本単元では、単元前半に教材文「じどうしゃくらべ」をつかって、文章の簡単な構成を学習し、単元後半に「じどうしゃずかんづくり」の活動を設定することで、単元前半に身に付けた文章の構成に関する知識を生かして単元後半の図鑑づくりに取り組めるようにする。

単元前半では、文章の簡単な構成に着目させたい。しかし、柴田ら(2023)は、説明的文章の指導の考え方について、以下のようにまとめている。

	内容主義	形式主義
指導の中心	内容の理解	形式的な技能を身に付けること
具体的な内容	教師が解説する 子どもたちがリサーチする	キー・ワードを見付ける 要約をする 要旨をまとめる
落とし穴	文章を深く読み取る力がつかない 文章を吟味する力がつかない	文章を読んでいくなかで発見をしたり疑問をもったりといった要素が軽視される

さらに「内容主義」と「形式主義」を克服するための「文章の吟味（評価・批判）という観点」が重要であると述べ、そのためには「内容だけに着目しても書かれ方だけを問題にしてもいけない。内容と書かれ方を統一的に把握していくことが，必然的に求められていく」と主張している。

以上のことから、単元前半の「読み」の学習では、単元後半の図鑑づくりという活動を見通す中でも、形式的な指導に傾斜することなく、子どもが内容にも着目できるように指導することが重要と考えられる。

（３） 内容と形式の学習について

内容の指導は、教材文の意味を理解させていくことである。そして、形式の指導は、教材文の書かれ方を理解させていくことである。「じどうしゃくらべ」の書かれ方は順序に着目することで理解すること

ができる。また、その順序を理解するためには、叙述の内容における関係を捉える必要がある。宮内(2023)は「じどう車くらべ」の叙述の役割について以下のようにまとめている。

本文	文の役割	ページ
じどう車くらべ	(題名)	1
①いろいろなじどう車が、どうろをはしっています。	話題提起	
②それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。	問い	
③そのために、どんなつくりになっていますか。	問い	
④バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶしごとをしています。	しごと	2
⑤そのために、ざせきのところが、ひろくつくってあります。	つくり①	
⑥そとのけしきがよく見えるように、大きなまどがたくさんあります。	つくり②	
⑦トラックは、にもつをはこぶしごとをしています。	しごと	3
⑧そのために、うんてんせきのほかは、ひろいにだいになっています。	つくり①	
⑨おもいにもつをのせるトラックには、タイヤがたくさんついています。	つくり②	
⑩クレーン車は、おもいものをつり上げるしごとをしています。	しごと	4
⑪そのために、じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってあります。	つくり①	
⑫車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついています。	つくり②	

宮内(2023)「じどう車くらべ」本文と文の役割

本教材の書かれ方における「順序」は、叙述間の二つの関係から理解することができる。

一つは、「④―⑤⑥」「⑦―⑧⑨」「⑩―⑪⑫」などの「内容の関係」である。この関係は、意味に着目することで理解することができる。

もう一つは、「②―④」「②―⑦「②―⑩」(赤色の部分の関係)や「③―⑤⑥」「③―⑧⑨」「③―⑪⑫」(青色の部分の関係)などの「形式の関係」である。この関係は、「問い」と「答え」という書かれ方に着目することで理解することができる。

※「内容の関係」と「形式の関係」は、それぞれが関係し合っているため、本来明確に区分できるわけではない。しかし、本指導案においては、学習内容を整理するために便宜上区分している。

5　児童観

本学級の子どもは、16の園から進学してきているため、学習経験に大きなちがいがある。また、家庭でのいわゆる「先取り学習」の状況については、何もしていない子どももいれば、学習塾に通って4年生の学習内容に取り組む子どももいる。学校では、すでに自分で読書をして物語の感想を伝えに来る子どもや、黙読はできないが小さな声でつぶやきながら読書をする子どもがいる一方で、指で文字を追わないとどこを読んでいるのか分からなくなってしまう子どもがいる。

他方、数名の児童が「保育園の頃は自分の好きなことができた」や「なんで時間割があるんだ」など、就学前に比べて自分のペースで自分のやりたいことができなくなったことに不満や困り感をもっている。

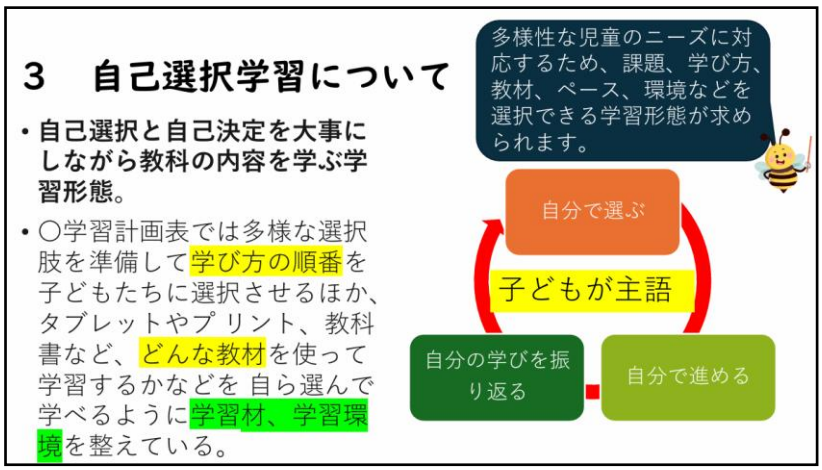
学習経験にちがいがあることから、単元前半の「読み」の学習では全員に対して確実に知識・技能を身に付けさせることを重視する必要がある。一方、就学して環境が変わったことにより困っている子どもがいることから、単元後半の「図鑑づくり」の学習では、子どもの思いや願いに寄り添い、子どもの選択の余地を増やしていけるようにすることが重要であると考えられる。

6　研究主題に迫るための手立て

目黒区教育委員会(2025)は「様々な状況、事情のある児童・生徒」がいることから「多様性に対応した柔軟な学び」を実現する「自己選択学習」の必要性を示している。また、「自己選択学習」を「児童・生徒一人ひとりが自らの興味・関心や学習上の課題等に応じて柔軟に学びを選択する学習」と定義付けている。

これを受け、本校では、本校における児童の実態を鑑み「児童の粘り強さと自己調整力の育成～国語科指導を通して～」を研究主題とした。また「自己調整力」とは「児童が自己の現状や課題を認識し、最適な学び方を『見通す→実行する→振り返る』をしながら学ぶ力」と定義付けることとした。

令和７年６月２日に行われた研究全体会では、講師の横溝宇人先生から「自己調整力を育成する授業改善のポイント」と「国語科の自己選択学習実践事例」についてご指導いただいた。そこで、「自らの学習を調整しようとする」ということは「自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど」と示していただいた。また、そのためには子どもに選択の余地があることが重要であるとし、自己選択学習の考え方をご教示いただいた（横溝 2025）。



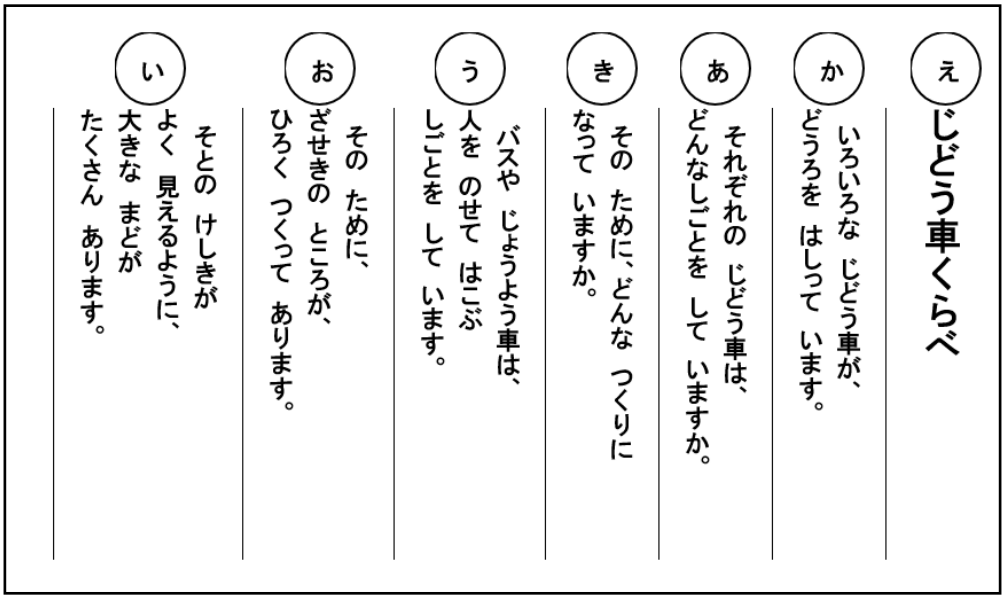
横溝(2025)令和７年６月駒場小学校研究全体会資料

これらを受け、低学年分科会では、研究主題である「児童の粘り強さと自己調整力の育成～国語科指導を通して～」に迫るために「教示された学習方法の中から児童自身が選択し、課題解決できる」力を身に付けさせたいと考えた。そして本実践では、子どもが自分で教材を選択し、自分で学習を進め、自分で学習を振り返る学習を行うことで、自己調整力が身に付くと捉えた。具体的には、単元後半の「図鑑づくり」において教師が例示したものの中から「子どもが自ら選んだ題材で図鑑をつくる」ことに焦点を当て、子どもの「見通す→実行する→振り返る」という学びを実現することで、研究主題に迫ることができると考えた。

一方、久田ら(2006)は「子どもの学習能力も教科内容の科学も、ア・プリオリな固定量として与えられているものではない」とし「ある内容が教授される、つまり、『わかる』ように教えられることで、はじめて、子どもの能力が発達、形成されるのである」と述べている。このことから単元前半で「読み」に関する知識・技能を確実に身に付けさせてから、単元後半で「子どもが自ら選んだ題材で図鑑をつくる」ことが重要と考えられる。以下にそのための手立てを示す。

（１）　子どもが思考し選択しながら内容と形式に着目させるための「バラバラ事件」

子どもたちに、文章中の形式段落における「内容のつながり」と問いと答えからなる「形式の関係」に着目させたい。しかし、本学級の実態における「自分のペースで自分のやりたいことができなくて困っている子ども」を踏まえると、単元前半においても、教師が一問一答形式で主導するような指導ではなく、なるべく子どもが思考し選択できるような授業を目指したい。そこで以下のように、本文を形式段落で分けたものを並べ替える活動（バラバラ事件）を設定する。

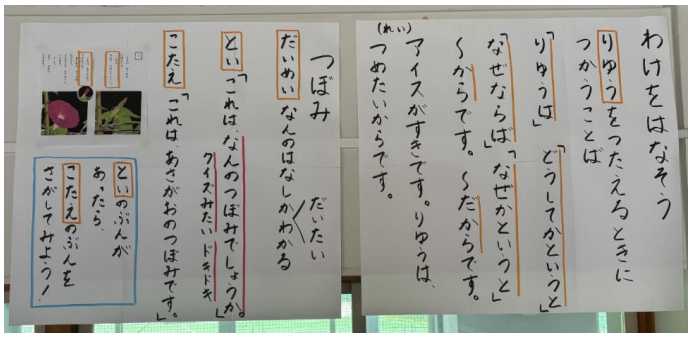


既習内容と教材分析から、子どもたちは、以下のように「内容のつながり」と「形式の関係」を手掛かりにしながら並べ替える活動に取り組むと想定できる。

① え…題名
② か…話題提示
③ あ…問い１「どんな『しごと』をしていますか」
④ き…問い２「『そのために』どんな『つくり』になっていますか」
⑤ う…答え１「人をのせてはこぶ『しごと』をしています」
⑥ お…答え２「『そのために』ざせきのところが、ひろく『つくって』あります。」
⑦ い…答え２『大きなまどがたくさんあります』という『つくり』

本文は「え→か→あ→き→う→お→い」の順番になっている。しかし、並べ替えの際には「え→か→あ→う→き→お→い」という一問一答形式を考える子どもがいることが想定できる。この一問一答形式でも「内容のつながり」と「問いと答えの関係」は捉えられているため、理由を明確にしたうえで価値付ける。

（２） 学びを共有するための掲示物



本学級では、単元における学びの履歴を教室に掲示している。これまでに学んだ「問いと答えの関係」や「何の話をするのか（話題提示）」、「（繰り返しつかわれている）大事なことば（重要な語句）」に着目することは、本教材においても重要である。一方で、１年生の子どもたちの記憶は断片的であることが想定される。そのため、必要に応じて掲示物を見て学びの履歴を振り返るように声を掛ける必要があると考えられる。

（３） 振り返りの時間の工夫

本校では「自己調整力」を「児童が自己の現状や課題を認識し、最適な学び方を『見通す→実行する→振り返る』をしながら学ぶ力」と定義付けている。しかし、小学校１年生という発達段階で、自己の現状や課題を認識できる子どもは多くないだろう。中でも自己の「課題」を認識することは、さらに困難であると想定される。そのため、本実践の振り返りの時間では、自己の「現状」の認識を対象にして「見通す→実行する→振り返る」という学びのサイクルを回していくこととする。

そこで、「バラバラ事件」「図鑑づくり」「鑑賞会」という各活動の最後の時間（第５，11，13 時）に振り返りカードをつかって「楽しかったことは何ですか」と問い、教師が設定した項目の中から選択させることで、子どもが「自身の関心をもったこと」を認識できるようにする。また、教師が次の活動を示すことで、子どもが見通しをもって学習に取り組めるようにする。

７　単元の指導計画と評価計画(全１３時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	♦評価規準と評価方法
	1	① バラバラになった文章を並び替える際のルールを知る。 ② バラバラ事件を解く。	○合図があるまでは中身をみない ○答えを当てるのも大切だが「なんでその順番なのか」を大切にしてじっくり考えることを伝える。	主① 進んで説明を読もうとしている。

一	2 本 時	① 机の上に並べなおして、そのように並べた理由を思い出す。（発表の準備） ② なぜその順番に並べたのか、理由を発表する。	○「内容のつながり」と「形式のつながり」を色で分けて、振り返りをしやすくする。 ○理由を考えているという過程を称賛することを心掛ける。	知① 問いと答えの関係について理解している。
	3	① 自動車図鑑をつくることについて、見通しをもつ。 ② トラックの事例を読み、バスやじょうようしゃの事例と似ていることを探す。 ③ 考えたことを発表する。	○急に図鑑をつくるといっても、書き方が分からないと難しいことに気付かせる。 ○「しごと」と「つくり」という言葉の意味を全体が理解しているかを確かめる。	主②自動車図鑑作成に向けて、見通しをもって活動している。 思① それぞれの自動車ついての説明が書かれていることを捉えている。
	4	① クレーン車の事例を読み、バスやじょうようしゃ、トラックの事例と似ていることを探す。 ② 考えたことを発表する。		知② 「車」と「仕事・つくり」の関係を理解している。 思② 文章の重要な語や文を見付けている。
	5	① 本文全体を通して読み「しごと」と「つくり」に色を付ける。 ② なぜその順番になっているのかを考える。 ③ 第一次を振り返る。	○色が問いと答えの関係の順番になっていることに気付かせる。	知③ 順序について理解している。
二	6	① お手本となる図鑑を見て、図鑑づくりの活動への見通しをもつ。 ② ひとつ題材を選んでつくる。	○お手本が、どのような構成で書かれているのかを確認する。	思① 順序を意識して、簡単な構成を考えている。 主① 分かりやすい説明の仕方に興味をもっている。
	7 8 9 10 11	① 自分で選んだ題材について、図鑑のページをつくる。 ② 第二次を振り返る。	○全員が、構成を理解して書くことができるのかを確認する。	知② 書き方の順序について理解している。 主② 自動車図鑑作成に向けて、見通しをもって活動している。
三	12 13	① つくった図鑑を鑑賞し合う。 ② 良いと思ったことを発表する。 ③ 第三次を振り返る。	○鑑賞の視点をもたせるために、図鑑に題名をつけさせる。また、何を見てほしいのかを書かせる。	知① 内容のつながりについて理解している。

８　本時（2/１３）

（１）本時のめあて

ばらばらになった叙述を、理由を考えて並べ替える。また、その理由を発表し合い「分かりやすい順番」を考える。

（２）本時の流れ

時	○学習活動　・予想される児童の反応	□指導の留意点、考えを深めるための手立て　★評価	
導入 ５ 分	○本時のめあてを確認する。 ばらばらじけんのなぞをとけ！ ～なんでそのじゅんばんなのかな？～ ○前時で考えた並べ方で、自分の机の上に紙を並べる。 ○なぜその順番にしたのかを思い出す。	□なぜその順番にしたのかという「理由」が大切であることを繰り返し伝える。 □自分で思い出すことも、前時に一緒に考えた友達と話しながら思い出すことも認める。	
展開 ３０ 分	○理由を話し合う ・え…題名 ・か…話題提示 ・あ…問い１「どんな『しごと』をしていますか」 ・き…問い２「『そのために』どんな『つくり』になっていますか」 ・う…答え１「人をのせてはこぶ『しごと』をしています」 ・お…答え２「『そのために』ざせきのところが、ひろく『つくって』あります。」 ・い…答え２『大きなまどがたくさんあります』という『つくり』	【内容のつながり】として扱うこと □「しごと」と「つくり」の関係 「うーおい」 □「そのために」の意味と効果	【形式の関係】として扱うこと □題名 □話題提示 □問いと答えの関係 「あーう」「きーおい」
		□これらのちがいが分かりやすいように、板書は色を分けて書くようにする。 □妥当性の低いような理由があったとしても、叙述をよく読み、理由を考えている思考の過程を認める。	
終末 ３ 分	○見付けた理由を振り返る。	知①【観察】 問いと答えの関係について理解している。	

(3)板書計画

ばらばらじけんのなぞをとけ！

～なんでそのじゅんばんなのかな？～

え　じどう車くらべ

か　いろいろな じどう車が、どうろを はしって います。

あ　それぞれの じどう車は、どんなしごとを して いますか。

き　その ために、どんな つくりに なって いますか。

う　バスや じょうよう車は、人を のせて はこぶしごとを して います。

お　その ために、ざせきの ところが、ひろく つくって あります。

い　そとの けしきが よく 見えるように、大きな まどが たくさん あります。

＜引用・参考文献＞

・文部科学省(2017)小学校学習指導要領解説国語編．東洋館出版
・茅野政徳(2023)小学校国語教材研究ハンドブック．東洋館出版
・柴田義松，阿部昇，鶴田清司【編著】(2023)あたらしい国語科指導法七訂版．学文社
・目黒区教育委員会(2025)第５回ｅラーニングチェック研修「自己選択学習の効果的な指導」
・横溝宇人(2025)令和７年６月駒場小学校研究全体会資料
・久田敏彦，深澤広明編・解説(2006)学級の教育力を生かす吉本均著作選集３学習集団の指導技術．明治図書

低学年分科会【研究の成果と課題】　〇成果　●課題

【言葉による見方・考え方を働かせる】 →児童が言葉への感覚を高められる内容や場の工夫

〇「重要な語句」を見付けることや文末表現などに、複数の単元で繰り返し着目させることで、児童が言葉に着目できるようになった。

〇学習した内容を教室に掲示し学級全体で学んだことを可視化したことで、児童が新しい文章と出会った際に、既習内容を振り返りながら学習するなど、見通しをもって取り組めていた。

●文章を形式段落ごとに分け、順番を並べ替えて配布して、児童に文章の順序を考えさせる「ばらばらじけん」は、１年生の児童にとって難しい活動であった。発達段階に応じた学習内容について研究していく必要がある。

【学習する内容や学習方法の選択】 →児童が自己選択できる教材や活動の場を設定する工夫

〇自分の好きな自動車を選択してつくる「じどう車ずかんづくり」は、児童の意欲を高めていた。全ての児童が、自分の好きな自動車を選び、図鑑を作成していた。

●「じどう車ずかんづくり」の学習では、読みの学習と対応させながら、学ばせたいことを教師が明確にした上で、指導する必要がある。

【振り返り】 →児童が実行したことを評価し、計画を再構築できるようにする工夫

〇単元を「一次」「二次」「三次」に分け、一次ごとに振り返りを行ったことで、児童が適切に自己の学習状況を振り返ることができていた。

●教師が立案した計画を提案し、学習の見通しをもたせることはできたが、児童に計画を立てさせたり再構築させたりすることはできなかった。発達段階に応じた指導を研究していく必要がある。

第４学年国語科学習指導案

日　時　令和７年９月　８日（月）
第６校時 13：40～14：20
対　象　第４学年２組　28名
授業者　浅利　元貴
場　所4階第４年２組教室

児童の粘り強さと自己調整力の育成
～国語科指導を通して～

１　単元名　中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう。
教材名　「未来につなぐ工芸品」「工芸品のみりょくを伝えよう」（光村図書　国語四年）

２　単元の目標

・事典の使い方を理解し使うことができる。（知識及び技能）
・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
（思考力、表現力、判断力等）
・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思考力、表現力、判断力等）
・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる
(知識及び技能)
・言葉がもつよさを認識するとともに進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。
（学びに向かう力、人間性等）

３　単元の評価規準

	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①　事典の使い方を理解し使っている。 ②　幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	①　「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 ②　「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。	①　単元の学習の見通しをもって第6時までの学習計画を立て、教材文を読んで学んだことをリーフレット作りに生かそうとしている。 ②　積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。 ③　学んだことをいかし、今後文章を書くときには、伝えたいことを分かりやすく書く工夫をしようとしている。

４　教材観

本教材は、「読むこと」と「書くこと」の二つの領域にわたる指導事項を中心にした複合単元である。「中心となる語や文を見つけて要約」し、その学習を踏まえて「理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫」して、興味のある工芸品についてリーフレットを作る活動を行う。調べる際には、百科事典や図鑑、書籍、資料から「必要な知識や情報を得る」ことで、それらの使い方や有用性を実感させたい。

５　児童観

本学級の児童は、今年度クラス替えを行い新たな集団となり約４カ月を過ごしてきた。一人一人が個性豊かな児童で、授業中の多彩な考え方で学習が深まる場面も多くあり、担任として素晴らしいと感じている。

また学習中は、自分の課題が終わると、自主的に友達の課題解決を手伝いに行っている様子が多く見られる。一方で、誰よりも早く課題を終えることを意識しすぎるため、自身の課題をより良くする作業を疎かにしたり、友達に解答まで教えてしまったりして、考えるチャンスを失わせてしまう場面も多く見られる。

上記の課題を改善するためにも、夏季休業日前に行った関連単元である「新聞を作ろう」では、本来グループで新聞の作成を行う活動を、個人で行う活動として、児童個人の「粘り強さ」や「自己調整力」の育成を行った。単元初めに配布した、「ガイダンス資料」や「学習計画・調整表」を一人一人が活用・修正しながら学習を進めていくことで、「粘り強さ」や「自己調整力」が向上したと感じている。

本単元は、「新聞を作ろう」と似た単元構成である。以前活用した「ガイダンス資料」や「学習計画・調整表」を活用することで、さらなる「粘り強さ」と「自己調整力」の育成を期待している。

６　研究主題に迫るための手立て

中学年分科会では、研究主題「児童の粘り強さと自己調整力の育成」に迫るために児童自身が学習の見通しをもち、自らが学習計画を立て調整していくことが大切であると考えた。単元初めの学習の中で児童が見付けた「課題解決のポイント」を教師がまとめガイダンス資料として児童に示す。

その後、ガイダンス資料を活用しながら児童が主体となり学習計画表を作成して学習に取り組んでいく。学習を進める過程で、当初に立てた計画を調整しながら課題解決に取り組むことで、児童の粘り強さや自己調整力が育成されると考え、以下の手立てを実践していく。

・視点①「言葉による見方・考え方を働かせる」ための工夫

➢　本単元の学習を円滑に進めていくために、学習環境の整備は大変重要であると考える。中でも、リーフレット作りを行う際に、どの資料を選択するのかによっても学習の難易度は大きく変わってくると考える。多くの児童が、インターネット上での情報を参考にする傾向があるが、観覧するページにより情報が難しかったり、誤った情報があったりすることがある。本単元では、事典等書籍の活用が単元の目標となっているため、区立図書館と連携して、伝統工芸品に関する書籍を多く準備する。そうすることで、学年相応の資料を、児童がいつでも見ることができる環境にして、書籍からだけでは、足りない情報をインターネット上で得るようにする。

あくまで、書籍をメインの資料として、インターネット上の情報を補助資料として指導を進めていく。

・視点②「学習内容や学習方法を選択」できるようにするための工夫

➢　学習を通して見付けてきた学習を進める上で重要なポイントをガイダンス資料としてまとめ、児童の課題解決の一助とする。また、中学年という実態を踏まえ、課題解決上重要なポイントを、自身が終えているかチェックできる形式のガイダンス資料とすることで、個人で進度を把握しながら進めていくことができるように工夫した。

・視点③学びの自覚化につなげる「ふり返り」の工夫

➢　工芸品の魅力を伝えるリーフレット作りに取り組む前に、一人一人が学習計画を立てる時間を確保する。与えられた時間で、自分が「何を行わないといけなのか」「何をしたいのか」を明確にして、丁寧に学習計画を立てていく。その際に、ガイダンス資料を活用して、行うべきことを具体化しながら計画できるように助言を行っていく。

　また、毎授業で振り返りの時間を確保して、リーフレットを作成する過程で、予定通り課題解決が進んでない場合やより良くするためのアイデアが浮かんだ場合には、学習計画表の修正を行い「自己調整力」の育成を図る。十分に修正が行えていない児童に関しては、授業中の机間指導等に担任が適宜助言を行っていく。最終的に、自分で計画を立て、自分の力で課題解決を行う成功体験を味わうことで、児童は「粘り強さ」も身に付けることができると考える。

７　単元の指導計画と評価計画（全１３時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	♦評価規準と評価方法
一	1	①　教科書 P47 の題名や挿絵から教材文への興味を高め、単元全体の流れを把握する。 ②　「未来につなぐ工芸品」を読み、教科書 P54「問いをもとう」「目標」を基に、「未来につなぐ工芸品」の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	○単元全体に目を通し、「読むこと」で学習したことを生かして、リーフレットを作ることを押さえる。 ○工芸品にどんな魅力を感じたかとその理由を取り上げることで、児童それぞれの問いを引き出す。	態① 観察・発言
二	2	①　文章をまとまりに分け、筆者の伝えたいことを捉える。 ②　「中」で挙げられている例と、その役割を確かめる。	○筆者の考えが書かれている叙述に印を付けさせる。 ○写真を使った説明効果についても考えさせる。	知② 観察・発言 思② 記述 態② 観察・記述
	3	①　「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文を見つけて要約する。	○筆者の伝えようとしていることを捉えるために、考えと事例との関係を明らかにさせる。	
	4	①　筆者の考えについて考えたことを、ノートにまとめる。	○要約をすることで捉えた筆者の考えに対しての、自分の考えを明らかにさせる。	
	5・6	①　要約した文章を紹介しながら、筆者の考えについて考えたことを伝え合う。 ②　工芸品に関する資料や図鑑を読み、内容を友達に知らせる。	○筆者の伝えたいことを話題の中心にする。 ○リーフレットに書く工芸品を選ぶために読むことを、目的に設定する。	

三	7	① 教科書Ｐ５６「問いをもとう」「目標」を基に、「工芸品のみりょくを伝えよう」の学習課題、学習の流れを確かめる。	○興味をもった工芸品のどんなことをさらに調べ、伝えたいかについて考えさせる。 ○教科書 P58―59の作例を読み、文章の組み立てを確かめる。 ○次時以降の学習を円滑に進めるために、必ず工芸品を選んでおく。	知① 観察・記述 思う① 記述 態② 観察・記述
	8	① ガイダンス資料と学習計画・調整表を確認して、次時からの計画を立てる。	○与えられた時間で、自分が「何を行わないといけなのか」「何をしたいのか」を明確にして、丁寧に学習計画を立てることができるように助言する。	
	9 10 11 （本時） 12	① 選んだ工芸品について詳しく調べ、分かったことを図を使って、整理する。 ② 組み立てと資料の使い方を考える。 ③ 考えた組み立てに沿って文章を書く	○参考図書を示せるように、出典の情報を記録する。 ○写真や絵を置く効果を意識させ、位置や大きさを工夫させる。	
四	13	① 完成したリーフレットを読み合い、感想を伝え合う。 ② 単元の学習を振り返る。	○効果的だった書き方を伝え合うように促す。 ○「ふりかえろう」「たいせつ」「いかそう」で学んだことを確認させる。	態③ 観察・発言・記述

８　本時（11/13）

（１）本時のめあて

積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。

（２）本時の流れ

時	○学習活動　・予想される児童の反応	□指導の留意点、考えを深めるための手立て　★評価
導入 ３ 分	○学習計画・調整表をもとに本時で行うべき学習内容を確認する。 ・私は、魅力を伝える文章を書き進めていくよ。 ・ぼくは、２、３ページは完成したから裏表紙を作っていくよ。 ・文章を分かりやすくする写真を探さないといけないな。 工芸品のみりょくが伝わるリーフレットの完成を目指そう。	□学習計画表を確認することで、一人一人が具体的なめあてをもてるようにする。 □前時までの、児童の活動を価値付けることで、意欲向上をねらい、粘り強く最後まで頑張ろうという意識付けを行う。
展開 ３４ 分	○個々のめあてに応じて学習を進めていく。 ①　表紙（タイトル、名前、画像） ②　裏表紙（他に知らせることや出典） ③　内側（工芸品の魅力を伝える文章） ④　完成したリーフレットの推敲・改善 ○全体でガイダンス資料の確認を行い、自身の進度を確認する。 ・残り１時間で完成させないといけないから、手を付けていない部分も学習をすすめないと。 ・完成したと思っていたけど、写真をもっとより良いものに変更できそうだな。 ・具体例を挙げる言葉を使っていなかったから、文章を修正しよう。 ・裏表紙に書く、出典をメモし忘れていた。調べなおそう。	□前時に提出したリーフレットを担任が確認しておくことで、進度が間に合いそうにない児童を中心に、机間指導を行い、学習を調整する視点を示していく。 □完成報告に来た児童には、別課題を与えず、リーフレットをより良くする視点を示すことで、粘り強く課題に取り組む態度を育成する。 ★態② 積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫して、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。
終末 ３ 分	○学習計画・調整表に振り返りを行い、変更点がある場合は、計画表を調整する。	□調整した児童に、「何を、どうして」調整したのか発表してもらうことで、他の児童にも調整する視点を共有する。

(3)板書計画

工芸品のみりょくを伝えよう

め　工芸品のみりょくが伝わるリーフレットの完成を目指そう。

2・3ページ目の書くポイント

「リーフレット例」の掲示

書くためのポイントを掲示する。

表紙・うら表紙に書くこと

「表紙・裏表紙例」の掲示

表紙・裏表紙に書くべき内容を掲示する。

中学年分科会【研究の成果と課題】　〇成果　●課題

【言葉による見方・考え方を働かせる】 →児童が言葉への感覚を高められる内容や場の工夫

〇単元の学習に必要な図書資料を準備することで、学年相応の資料の中から、児童自身が資料を選択することができていた。また、より詳しく調べたいことをインターネットを活用して調べることでリーフレットが具体的になっていた。

●図書資料を、丸写ししてしまう児童もいた。自分の言葉で文章を作る語彙力や経験をさらに積ませる必要がある。

【学習する内容や学習方法の選択】 →児童が自己選択できる教材や活動の場を設定する工夫

〇中学年用のガイダンス資料を作成することで、自己選択学習を進めることができた。課題解決上重要なポイントをガイダンス資料にまとめ、解決したものをチェックしていくことで、児童は自身の進捗状況を把握しながら、学習を進めることができた。

●自己選択学習の学習経験が少ないため、児童によって内容の深まりに差があった。今後も定期的に単元内自由進度学習を行い、児童の自己調整力を少しずつ高めていく必要がある。

【振り返り】 →児童が実行したことを評価し、計画を再構築できるようにする工夫

〇毎時間、自分が「できたこと」と「まだできていないこと」を明確にさせることで、次時の学習計画を工夫する様子が見られた。自分の進捗状況を俯瞰的に見て、計画を再構築することで自己調整力だけでなく粘り強さも身に付いてきた。

●一人ひとりが内容に深まりのあるリーフレットを制作するために、評価の観点を児童に分かりやすく提示する必要があった。そうすることで、振り返りの視点が具体的になり、よりよいリーフレットの制作につながると考える。

第５学年国語科学習指導案

日　時　令和７年７月 14 日（月）
第６校時 13：40～14：20
対　象　第５学年２組　26 名
授業者　山田　香柏
場　所　３階　第５学年２組教室

児童の粘り強さと自己調整力の育成
～国語科指導を通して～

１　**単元名**　物語の全体像を捉え、考えたことを伝え合おう
　教材名　「たずねびと」（光村図書　国語五年 銀河）

２　**単元の目標**

・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知識及び技能）
・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思考力、表現力、判断力等）
・文章を読んで、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（思考力、表現力、判断力等）
・言葉がもつよさを認識するとともに進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）

３　**単元の評価規準**

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	①人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 ③文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	①学習の見通しをもち、物語の内容や構造を具体的に想像している。 ②自分の選択した問いに対する答えを粘り強く追究している。 ③意欲的に物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

４　**教材観**

本教材は、八場面で構成されている。第一場面から第八場面まで主人公「綾」の視点で書かれており、「綾」の心情やその変化が捉えやすく、自分と重ねながら読む力を育てていくことが期待できる。また、「綾」の心情は、彼女を取り巻く様々なものに投影されており、同じ人物の行動や情景描写から様々な想像ができるため、一人一人の感じ方の違いに気付く力も育むことができる。「綾」の心情を具体的に想像し、「綾」の心情の変化を中心に考えることで、物語の全体像を捉えることができるようにしたい。さらに、「綾」がそれら様々なものとの出会いを通して変わっていく様子を捉えさせたい。

また、本教材は、第３学年「ちいちゃんのかげおくり」、第４学年「一つの花」に連なる戦争に関する物語である。子供たちは原子爆弾に関する大まかな知識はあるものの、物語前半の「綾」と同じように、戦争が遠い時代・遠い世界のものであることが想定される。そのため、登場人物の「綾」と自分を重ね読み進めることで、読み手である自分自身の変化も感じられることが期待できる。

５　児童観

児童は第４学年で、「白いぼうし」「一つの花」「ごんぎつね」などの物語文を通して、叙述から登場人物の心情を想像して読む学習を重ねている。場面ごとに登場人物の言動や心情を整理して登場人物の性格や人柄をつかむ学習、描写から場面の様子を想像する活動をしてきた。第５学年「銀色の裏地」の学習でも、登場人物の心情が表れている表現に着目し、登場人物どうしの関わりを読む活動をしてきている。しかし、児童の実態として、どんな表現に着目すればいいのかという「読みの視点」の理解度に差が大きい。そのため、本教材「たずねびと」では、本文に入る前に、「ごんぎつね」を通してこれまでに着目してきた「読みの視点」を確認する学習を設け、本文での読みに活用できるようにした。問いを追究する自己追究の時間も、ふり返りを活用して行動や情景等から心情を具体的に想像しながら読む力を「読みの視点」として整理しながら丁寧に価値づけていく。どんな物語でも、どんな特徴に着目するかが分かれば、読みの助けとなることを実感させたい。さらに本単元では、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分と友達との共通点や相違点に気付かせ、多様な考えがあることを理解し、自分の考えを広げていくことができるようにしたい。

６　研究主題に迫るための手立て

研究主題「児童の粘り強さと自己調整力の育成」について、本単元において発現する姿を「児童が課題（問い）を設定し、自分に合った学び方で読みを追究していく」姿ととらえた。児童主体で学びを進めていくことを大事にしながらも、国語科で身に着けるべき力を確実に付けていくために、具体的に以下の視点を工夫する。

・視点①「言葉による見方・考え方を働かせる」ための工夫

➢児童自身で、叙述を結び付けて物語文を読み進めるために手掛かりとなる「読みの視点」を示す。本教材に入る前に、4 年生で学習した「ごんぎつね」を用いて、「人称視点」「行動描写」「人間関係」「情景描写」「カギことば」の５つの視点を確認した上で再読する。この活動を通して、「読みの視点」を用いて読むことが、物語の全体像をより具体的に想像するために有効であることを理解できるようにする。

➢「読みの視点」を用いて読み取ったことを書き記すワークシートや、「読みの視点」に着目したふり返りカードなどを工夫する。

・視点②「学習内容や学習方法を選択」できるようにするための工夫

➢児童がそれぞれ立てた複数の問いの中から、自分が解決したい問いと「読みの視点」を選択し、第 5～7 時の３時間をかけて自ら問いを解決する。

➢本教材の題材である「戦争」について具体的なイメージがもてるよう、広島の地図や原爆に関するニュース、写真などの資料をロイロノートに上げる。児童が必要に応じていつでも確認できるようにする。

・視点③ 学びの自覚化につなげる「ふり返り」の工夫

➢1 単位時間ごとにふり返りを行う。ふり返りカードに、使った「読みの視点」、読み取れたこと、まだわからないこと等具体的に書く活動を通して、児童が学びを自覚し、これからの学びを見通せるようにする。効果的なふり返りを、次の授業のはじめに教師が取り上げることで、価値付けていく。また、児童のふり返りに応じて、教師は、助言や軌道修正など個別にファシリテートしていく。

7　単元の指導計画と評価計画（全９時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	①これまでに学習した物語文で印象に残っているものを共有する。 ②「ごんぎつね」がどんな物語だったのかを共有する。 ③「ごんぎつね」で教師が設定した複数の問いの中から選択し、その問いに対する答えを、叙述を基にして考える。	○始めと終わりで何が変化した物語かを問うことで、要約ではなく登場人物の心情の変化などの全体像を確認できるようにする。 ○分量が多い教材であるため、クライマックス部分の叙述から考えられる問いに限定し、児童が効率よく読めるようにする。	態① ワークシート
	2	①問いに対する答えを共有し、その根拠となる叙述を確認し合う。 ②根拠となった叙述を「読みの視点」として整理し、まとめる。 ③整理された視点は、「ごんぎつね」だけではなく、他の教材文でも使える視点であることを確認する。	○「なぜそう考えられるのか」を問い続けることで、叙述に着目できるようにする。 ○「行動」「情景描写」等のように読みの視点をキーワード化して整理し、掲示できる形式でまとめるようにする。 ○整理した読みの視点が「銀色の裏地」でも使えた経験を振り返らせて、これからも活用していけるという見通しをもたせる。	態③ 問答カード 発言
二	3	①教科書Ｐ113 の扉ページを読み、「物語の全体像」を捉えるために読み取る内容は何なのかについて考え、共有する。 ②「たずねびと」という題名から話の内容を想像する。 ③「たずねびと」の範読を聞き、初発の感想をまとめる。	○中心人物の心情の変化だけでなく、場面の設定や言葉の役割など、様々な構成要素に着目できるようにする。 ○「たずねる」という言葉の意味を調べるなどして、「誰が何をたずねたのか」に関心をもたせる。 ○ICT を活用して作成させ、内容を効率的に共有できるようにする。	態①知① ノート 発言
	4	①本時のめあてを確認する。 ②初発の感想を共有し、全体で問いを作成する。 ③自分で選択した問いの答えを、自分で考えてまとめるという学習の見通しをもつ。	○事前に、感想を基にしてどんな問いができそうか整理しておき、意図的に指名する。 ○「気になる問い」「解決できそうな問い」を選択の基準にするとよいことを伝える。	知① ノート 対話
	5	①自己選択学習の進め方を知る。 ②読取シートと問答カードの使い方	○自己追究の３時間で、最低でも１つの問いに対する自分の考えをまとめることを目標として伝える。 ○自己追究の時間に質問ができることを伝え、	思①態② 読取シート ふり返りカード 対話

		について全体で確認する。 ③自己追究に取り組む。 ④ふり返りの行い方を確認し、本時の内容を振り返る。	簡潔に行う。 ○机間指導を行い、読取シートは自分の考えの根拠として使えるので、読み取れることとその理由のどちらも書き込むよう声を掛ける。 ○読取シートを見返しながら、項目ごとに振り返られるよう伝える。	
	6 本 時	①前時のふり返りを共有する。 ②自己追究に取り組む。 ③ふり返りを行う。	○どんな読みの視点を使って心情を考えているかを中心的に共有できるようにする。 ○読取シートとふり返りカードを確認しておき、机間指導は自己追究を困難に感じている児童を中心的に行う。	思①思② 読取シート ふり返りカード 対話
	7	①前時のふり返りを共有する。 ②自己追究に取り組む。 ③ふり返りを行う。	○問いに対する自分の考えを１つもまとめられていない児童には、現状の読み取った内容で考えて書くよう声を掛ける。	思② 読取シート ふり返りカード 対話
	8	①前時のふり返りを共有する。 ②本時のめあてを確認する。 ③問いに対する自分の答えについて少人数で話し合う。 ④全体で問いに対する答えを共有する。	○必ず、根拠について読取シートを活用して説明するよう伝える。 ○異なる問いを選択したメンバーで教師がグルーピングし、様々な考えを聞けるようにする。	思③ 対話
	9	①本時のめあてを確認する。 ②綾の心情の変化を全体でまとめ、広がった読みの視点を共有する。 ③物語を読み深めた上での自分の思いや考えを伝え合う。	○どんな読みの視点が使われていたかを確認し、学びの広がりを感じられるようにする。 ○綾の心情を考える活動を通して自分がどう思っているかを考えられるようにする。また、その思いが学習の始めと変化しているかも比較できるように、電子黒板に初発の感想を表示する。	態③ 対話

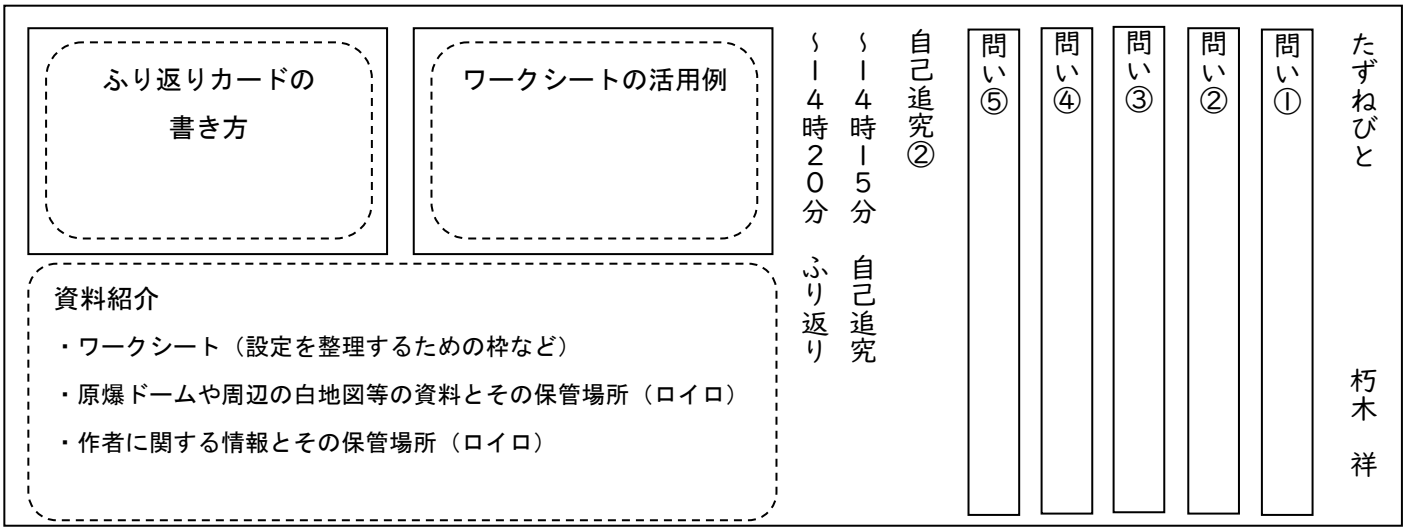
８　本時（６/９）

（１）本時のめあて　問いに対する答えを追究する過程を通して、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりできる。

（２）本時の流れ

	○学習活動　・予想される児童の反応	□指導の留意点、考えを深めるための手立て　★評価
導入	○前時のふり返りを共有し、本時のめあてを立てる。 ・前回は綾の変化について３場面までしかまとめられなかった。今日は注目する言葉を「綾の行動」に絞って読み進めてみよう。 ・登場人物の関係について調べるために会話に注目してきた。どんな関係か図にしてみると分かりやすそうだから、場面ごとに図でまとめてみよう。 ・友達の気付き（読みの視点）に納得した。その視点に注目して読んでみよう。	□本時の学びにつなげるために、前時までの学びで、全体に広げたい児童の気付きを読みの視点と一緒に紹介する。 □自分のふり返りと友達のふり返りを基にして、「読みの視点」と、図で整理してみるなどの「学習方略」の２点を意識しためあてを立てられるよう助言する。 □自ら学びを調整できるようにするために、追究する内容や進め方の変更も考えられるように声を掛ける。
展開	○それぞれのめあてで問いを追究する。 **＜児童がつくった問い＞** **・なぜ「たずねびと」という題名なのか** **・なぜ綾はアヤを探しに行ったのか** **・だれがだれ（何）をたずねたのか** **・おばあさんが綾に伝えたかったこととは** **・「静かに流れる川、夕日を受けて赤く光る水」の文が表していることとは** **・なぜポスターの夢を見たのか。「名前は、まるで羽虫のように…」はどういうことなのか** **・筆者が伝えたいこととは（主題）** **・綾がアヤを見つけられる気がしたのはなぜか**	□ふり返りカードと読取シートを確認しておき、自己追究が困難だと想定される児童を中心に、机間指導を行う。 □必要であれば問いを変更したり、追加したりしてもいいことを助言する。 □読みが行き詰まっている児童には、「読みの視点」を場面に合わせて提案したり、現状分かっている場面ごとの綾の心情を整理させたりして、これからどう読んでいけばいいかを一緒に考えられるようにする。 □描写の意味や特徴を相互に関連付けて捉えることができていない児童には、似たような表現や前後の場面を比較して考えられるように助言する。 ★思① 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。
終末	○本時の学習をふり返り、ふり返りカードを記入する。 ・友達の考えで参考になったことを図に入れたら分かりやすくなった。次は自分が選択した問いへの答えをまとめたい。 ・今日で問いへの考えをまとめられた。次回は他の問いについて考えてみたい。 ・今日で問いへの考えをまとめられた。次回はもう一度本文を読んだり、友達に聞いたりしてその考えを確かめたい。	□めあてに対して本時の活動がどうであったのか、また、現状を把握したうえで次に調べたいことの２つの視点で振り返ることで、次の学習へのつながりを意識させる。 □自分が活用した読みの視点と、そこから分かったことを項目ごとに記入させるようにして、学びが全体に広がるきっかけをつくる。 □次時が自分で追究する最後の時間であることを伝え、学びの自己調整を促す。

9　板書計画

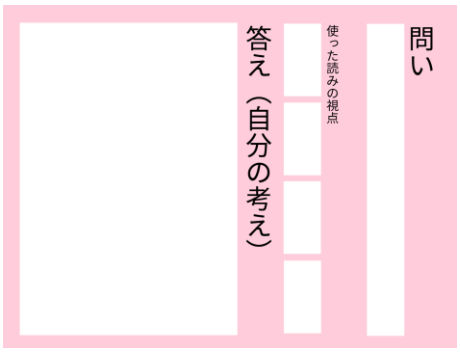


（電子黒板）

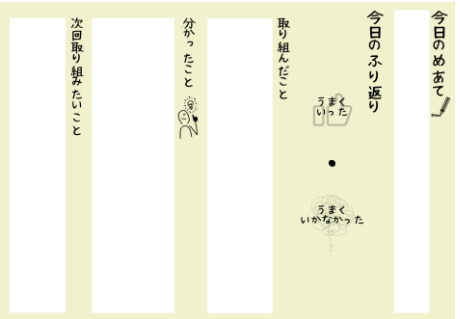
10　資料

ロイロノートによる
収集・共有

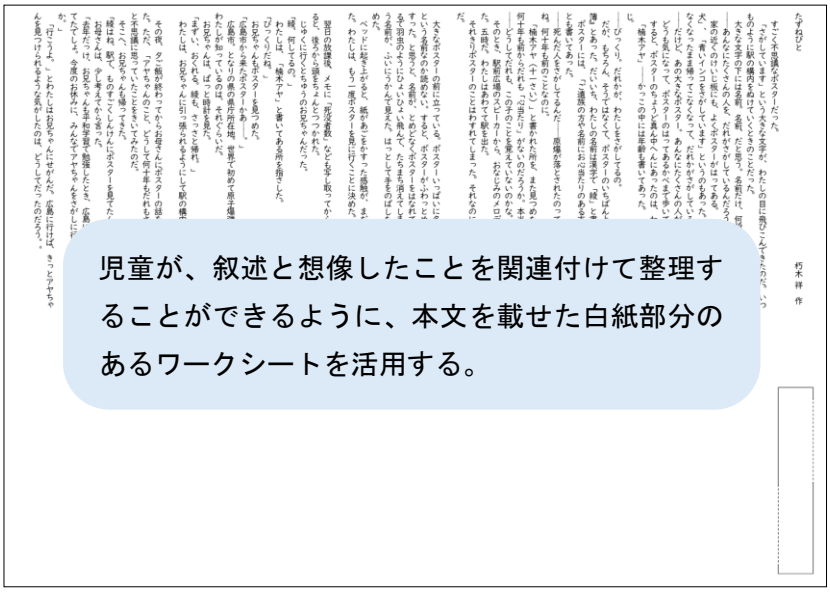
（問答カード）



（ふり返りカード）



（読取シート）



児童が、叙述と想像したことを関連付けて整理することができるように、本文を載せた白紙部分のあるワークシートを活用する。

高学年分科会【研究の成果と課題】　〇成果　●課題

【言葉による見方・考え方を働かせる】 →児童が言葉への感覚を高められる内容や場の工夫

〇「行動描写」「情景描写」などの読みの視点を明確にしたことで、叙述に基づいて人物の心情や物語の全体像を具体的に想像する姿が見られた。

〇友達の読みの視点に触れる場を設けたことで、同じ叙述でも多様な捉え方があることに気付き、言葉への感覚を広げることができた。

●読みの視点を意識する一方で、視点の活用が表面的になり、言葉の効果まで十分に考え切れない児童も見られた。

●どの場面で、どの言葉に着目するとよいのかを自力で判断することが難しい児童が見られた。

【学習する内容や学習方法の選択】 →児童が自己選択できる教材や活動の場を設定する工夫

〇問いや読みの視点、整理方法を児童自身が選択することで、自分に合った学び方で主体的に学習に取り組む姿が見られた。

〇必要に応じて問いを変更したり、資料や友達の考えを活用したりするなど、学習内容や方法を調整する姿が見られた。

●問いの立て方や選択した内容によって、学習の深まりに個人差が生じた。

●学習方法の選択に戸惑い、学習が停滞する児童への支援の在り方について、さらなる工夫が必要である。

【振り返り】 →児童が実行したことを評価し、計画を再構築できるようにする工夫

〇毎時間の振り返りを通して、使用した読みの視点や分かったことを整理し、自身の学びを客観的に捉える姿が見られた。

〇振り返りを次時の学習に生かし、学習の進め方を見直そうとする姿が表れ、自己調整力の育成につながったと考える。

●振り返りが活動の記録にとどまり、次の学習行動の改善まで十分につながらない場合があった。

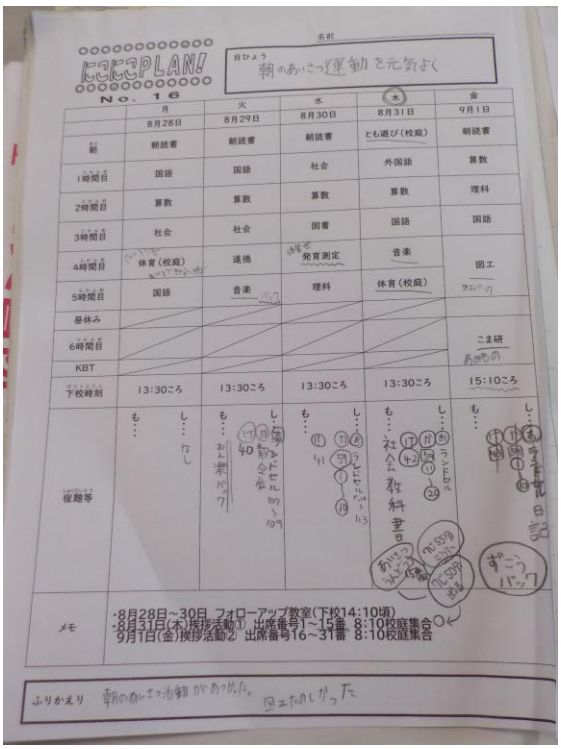
●「何を変えて次にどう学ぶか」を明確にするふり返りの問い方や支援が、今後の課題である。

プランニング（第3学年以上）

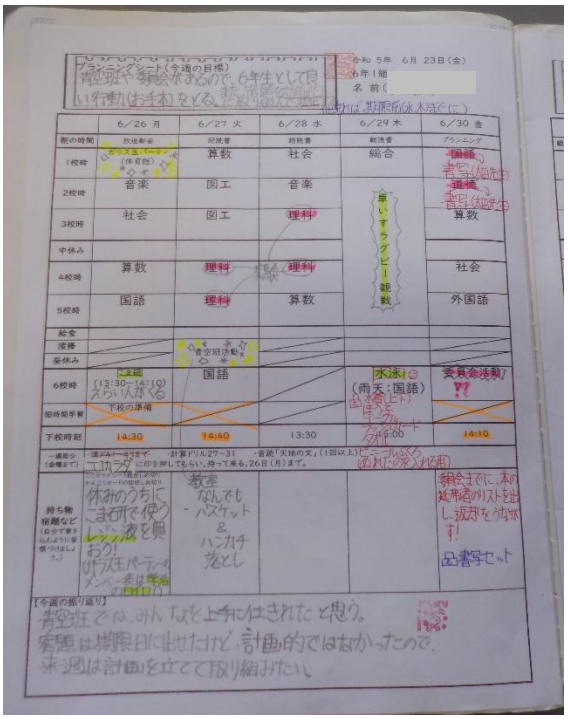
プランニングとは、児童一人ひとりが週の予定表をもとに、自身のスケジュールを管理することで、「自己認知力・自己調整力」の育成を目指していく取組。プランニングの活動を通して、児童が生活の見通しや目標をもち、主体的に学校生活を送れるようにする。

○発達段階に応じたプランニング

中学年のプランニングシート



高学年のプランニングシート



○５つのポイント

①1週間の目標をもつ（金曜日）
○その週の振り返りをもとに、次週に頑張りたいことを記入する。

②1週間の見通しをもつ
（中学年）持ち物や頑張りたい授業など
（高学年）持ち物や委員会の仕事、教室移動など

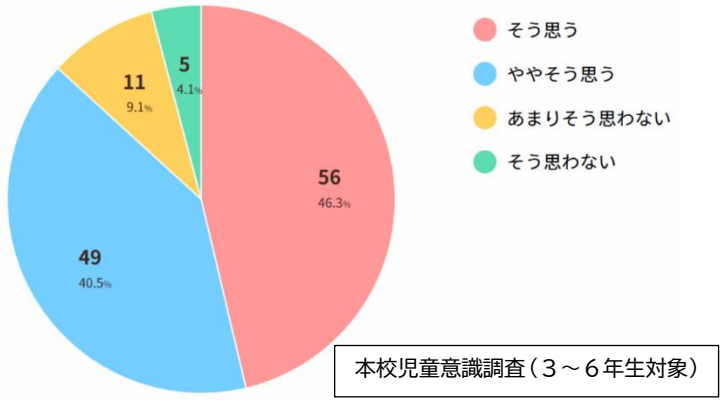
③宿題の進め方を考える
（中学年）毎日宿題を記入
（高学年）毎日の宿題を進めるペースを決める。

④毎日見返し、調整する
○学年や学級の実態に応じて、プランニングシートを見返す機会を確保する。

⑤振り返る（金曜日）
○1週間を振り返り、次の週の生活に生かす。

シートの自由メモ欄を「連絡事項」「持ち物」「宿題」のように区切って整理したり、教室移動やテストなど、自分が特に意識したい事柄を色分けしたりと、どのように記入したら分かりやすいか、活用方法を工夫する児童の姿が見られた。

プランニングに取り組むことで、見通しをもって行動することができるようになりましたか。



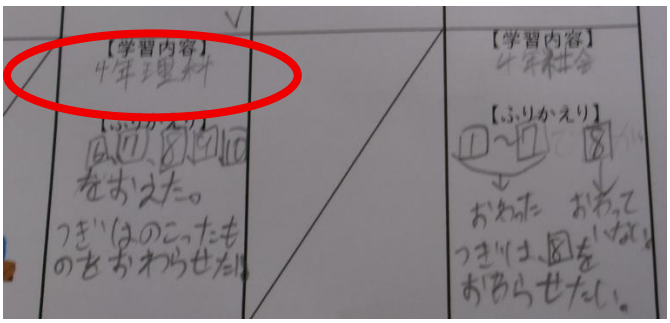
本校児童意識調査（３～６年生対象）

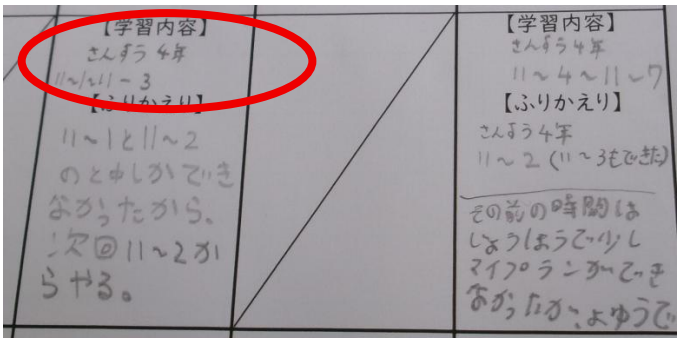
マイプラン学習（全学年）※ただし、1年生は1月より、2年生は後期より開始

マイプラン学習とは、児童一人ひとりが自分に合った学習を選択し、計画・実行・振り返りを繰り返し行う取組。自分の苦手な課題やさらに知識を深めたい課題など、自由に教科・単元を選択することができるため、目標をもって主体的に学ぶ姿勢が身に付く。

○マイプラン学習の例

プランニングシートに記入





「学習内容」の欄に、教科や単元名だけを書いていた児童が、繰り返し学習するうちに、ドリル番号など具体的に記入するようになった。また、実施した番号にチェックを入れ、未実施の課題は次回へ繰り越すなど、自己調整する姿も見られた。

○３つのサイクル（計画→実行→振り返り）

① 計画を立てる（金曜日）

○毎週金曜日のプランニングの時間に、自分が学びたい教科・単元の課題（ドリルパーク）の計画を立て、プランニングシートに記入する。

②実行する（火曜日・木曜日）

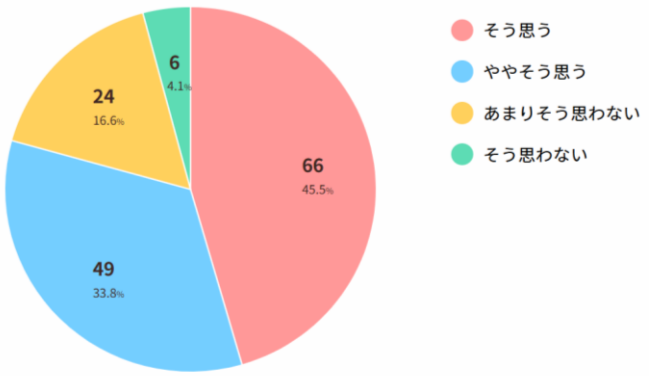
○週2回のペースで、自ら計画を立てた課題に取り組む。（1回18分程度）

③振り返る（火曜日・木曜日）

○課題に取り組んだ後、プランニングシートの「ふりかえり」欄に、今日の学習の振り返りを記入する。（1回2分程度）

【アンケート結果】

マイプラン学習に取り組むことで、自分で計画を立てて学習をすすめることができましたか。



こま研（こまば個人研究）

「こま研」とは、児童にとって「自分が好きなことを学び深めることができる時間」である。教科等で学んだことや教科等の学習で培った自己調整力を生かし、一人ひとりが自ら目標やテーマを設定し、興味をもったことやもっと詳しく知りたいことや調べたいこと、やってみたいことを自分のペースで学習する。

○こま研の進め方

１テーマを決める → ２計画を立てる → ３研究する → ４発表する

○具体的な内容例

学習系	・セミの成長について調べる（第３学年） ・チョウとガのちがい（第４学年） ・天気や雲について（第５学年） ・ルールを守る意味について（第６学年）
ものづくり系	・つかめる水をつくる（第３学年） ・惑星の模型の作成（第４学年） ・プログラミングでゲームをつくる（第６学年）
生活実践系	・お菓子の作り方の本をつくる（第４学年） ・アプリを作って遊ぶ（第４学年） ・自分の夢を叶えるために（第５学年） ・保護犬について（第５学年）
体育・運動系	・どうしたら速く走れるようになるか（第５学年） ・バスケのシュートが上手くなる方法（第５学年） ・サッカーで無回転シュートを打つには（第６学年）
芸術系	・好きな曲をピアノで演奏する（第３学年） ・イラストの描き方（第５学年） ・ドラムの演奏の練習（第６学年）

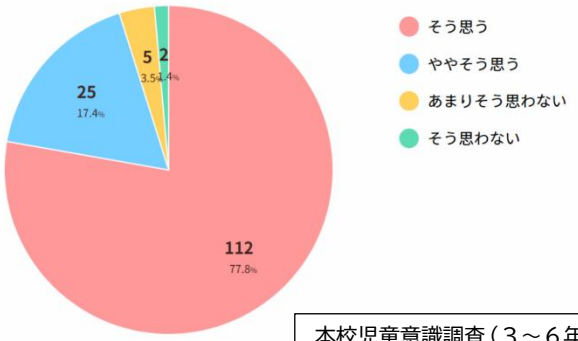
○使用できる場所

教室（ろうか）	学習室
図工室	体育館
家庭科室	校庭
音楽室	屋上
理科室	図書室

広いスペースがほしい、借りたい道具がある等、児童の目的に合わせて学習する場所を選択する。使用する際は職員室に待機している教員に声を掛けて一緒に行く。

※「こま研」は、第３学年～第６学年が毎週金曜日の６校時に取り組んでいる。その時間は、専科と第１・２学年の担任が職員室で待機し、児童の学習内容に応えられるようにしている。

「こま研」の時間は、自分のペースで学習を進めることができていますか。



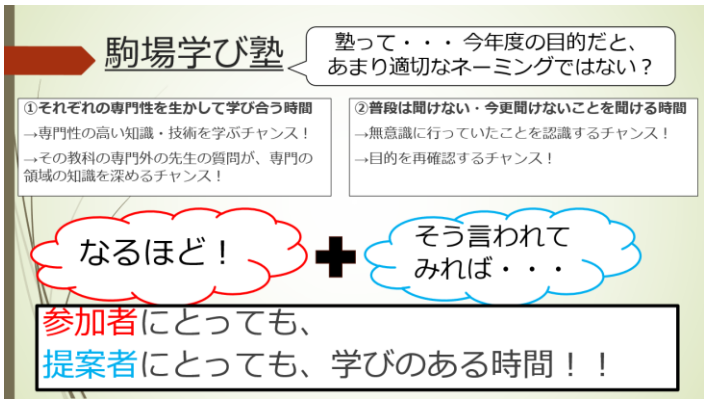
本校児童意識調査（３～６年生対象）

〔資料〕

こまば学び塾
通信

第１回報告

第１号　2025 年５月１３日
OJT 担当　　山田将太



１．日時　　2025 年５月 12 日（月）
２．提案者　山田将太
３．内容
（１）駒場学び塾の意義
〇専門性を生かして学び合える
〇普段は聞けない、「今更聞けないこと」を聞ける

（２）マット運動の提案（山田）
〇駒場の子って、どんな子？―その子たちに何を教えるの？
〇マット運動（中・高学年）では、基本的な技＋発展技？組み合わせ技？
〇組み合わせ技の授業の提案　～技と技をなめらかにつなぐ～
〇技を「できる／できない」ではなく、多様な空間表現を認める授業づくり
・前転→前回り・V 字バランス（スピードのコントロール）
・前転→後転（つなぎ技）（最後姿勢の工夫）
・前転→側転（次技予測）
（・グループでオリジナル連続技をつくる）

（３）質疑応答・感想によって深まったこと
〇発表会はやった方がいいのか
　発表会に向けて組み合わせ技をつくると、目的が明確になりモチベーションになる。ただ、他のグループの動きをみるということが普段からできていれば、発表会という場を必ず設ける必要はないとも考えられる。

〇自己調整学習との関連
　学んだことを生かして「組み合わせ技をつくる」ということは、本校の研究テーマである自己調整学習との相関性が高い可能性がある。子どもが自身の意図で選択できるから。一方で、スピードのコントロールやつなぎ技、最後姿勢の工夫、次技予測などの技術をしっかりと学んでおくことも重要である。

〇グループの人数・互いに運動を見合う難しさについて
　３人だと、運動をしている人の動きを見て、２人が話し合って考えを伝えることができる。また、グループの人数が増えると「お客さん」が生まれる。３人は最小単位と考えられる。
　互いに動きを見合うためには、だれがどこで見るのかを教える必要がある。（何を見るのかも重要）

〇「なめらかさ」を競うというものさしについて
　技が「できる／できない」とは違うものさしになっていることは分かった。しかし、それでも「なめらかさ」というものさしで測ると「うまい／へた」はある。これはスポーツっぽいことをする以上、仕方がないこと。しかし、お尻回転が他者から認められる可能性を秘めているように、組み合わせ技づくりでは、多様な価値観が認められる授業をつくることができる。

【次回例会について】
日時　　５月 26 日(月)
提案者 梶井先生
内容　　学級会について

第２回報告

第２号　2025 年５月２９日
OJT 担当　　山田将太

１．日時　　2025 年５月２６日（月）
２．提案者　梶井先生
３．内容
（１）特別活動とは？
①目標
②資質・能力を育てるための３つの視点
※添付の資料をご参照ください。

（２）梶井実践（５年生）
〇困難な学級・・・
右のような学級、ありませんか？
梶井先生がこのような学級と向き合う時に、カギになったのが・・・学級会！
〇なぜ、学級会で子どもが変わったのか
①学級目標（子どもたちが目指す、学級の姿）を決めた。
②学級活動(1)で、みんなで考えを出し合い みんなで話し合い みんなで決めて みんなで協力して、活動をする時間を大切にした。
これら①②を形にしていく時間が、学級会だったのです。

・低学年のころに好きなことばかりをしていた（児童談）
・発言が少ない
・リーダーになれる子がおらず、宿泊など班決めなどいつも荒れる
・自分に自信がないのに他人に厳しい。
・うまくできるか不安。
・先生が全部決めてほしい。
・リーダーなんて、できる子がやればいい（保護者）

困難な学級・・・

（３）学級会について
〇学級会のポイント
・話合いをする必要のある議題を選ぶ
※人権にかかわるような内容には配慮する。
・提案理由を考え、共通理解する
① 今の学級の様子・・・現状
② どんなことをしたら・・・手立て
③ こんな姿になりたい！・・・目指す姿
・計画委員会（作戦会議）
・話合い活動（学級会）
※必要なグッズや、台本、方法は、梶井先生が C4th で送ってくださっています。
・終末の助言での価値づけ（ポイントは以下の図）

【質疑応答、感想によって深まったこと】
〇学級会で台本を渡すことは、はじめに進め方を提示することだけでなく、進行をする上での安心感につながるという意味がある。
〇過去に行った学級会の資料を子どもたちに見せる。
〇合意形成の方法や話合いの仕方は、道徳や国語の単元で指導事項として教える。
〇学級会は会議ではなく、自分たちで決められる楽しい時間。話すのが苦手な子も話す気になるようにしていくことが大切。

司会グループの頑張り
提案理由・学級目標に沿った考え
みんなの考えをまとめる発言
司会グループを助ける発言
クラスのことを考えた発言
初めて発言できた子（めあてを達成した子）
思いやりを感じる言動

【次回例会について】
日時　６月９日(月)
提案者 平山先生
内容　学級活動（３）
・行事の事前事後指導
・夏休みのめあて

第３回報告

第３号　2025 年６月 12 日
OJT 担当　　山田将太

１．日時　　2025 年６月９日（月）
２．提案者　平山先生
３．内容「学級活動(3)行事の事前・事後指導について」

（１）学級活動の内容
平山先生がまとめてくださった添付の資料をご参照ください。

（２）学校行事の目標（赤字平山先生）
全校または学年の児童で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を高め、公共の精神を養いながら、第１の目標にかかげる資質・能力を育成すること目指す。

事前指導
〇一人一人が行動目標を決める！
・目標を決めるときには「縦の軸」と「横の軸」を意識させる。
・「縦の軸」・・・同じ行事の積み重ね
・「横の軸」・・・前の行事の学びを、次の行事で生かす
横の軸の例）２年１組の見通しとしては・・・
遠足（１年生とのグループ活動）
↓
運動会（1・2 年生全員が心を一つにする）
↓
ミュージックフェスタ（心を一つにしてお客さんを楽しませる）

事後指導
〇「身に付いた力」を共有して自分たちの成長をみんなで実感する！！
〇これからの日常生活や次の学校行事へ向かって自分はどうしたいのか、意思決定をする！

事前指導の例

①行事のねらいを共有
②全校の合言葉を確認
③自分の思いを考える
（行事が終わっていた時にどんな自分になっていたいのか）

→①②③の思いを実現するために頑張ることを行動目標として考える。

事後指導の例

①**つかむ**→行事について思い出す。

②**さぐる**→どんな力を身につけられたかを振り返り共有する。

③**見つける**→日常生活や次の行事にどのように生かしていくのかを考える。

④**決める**→自分は何を頑張っていくのかを決める。（意思決定）

【参加者の振り返り（今日１番学んだこと）】
〇「つかむ→さぐる→見つける→決める」の流れで行事での経験を生かせるように指導していきたい。
〇平山先生の事例のように、大きなめあてに即して自分のめあてを決め、事後１週間の振り返りをして身に付いた力を生活に生かす、をやってみたいなと思った。（プランニングへの活用も！）
〇行事の成功を１番に考えていたが、今後は一人一人の成長を１番に事前・事後指導していく。
〇（中略）写真を使っての振り返りをした上で、自分たちにベクトルを向け、成長した所を踏まえて、今後に生かす振り返りを今年度やります！
〇「身に付いた力」の共有は、M フェスタに生かせる。写真の振り返りもやりたい。
〇保護者からのメッセージを取り入れた振り返りをやりたい。
〇パワー充電カードのように、自分の成長を振り返ることのできる活動は、他の授業でも取り入れられる。

【次回例会について】
日時　７月７日(月)　提案者　涌井先生
内容　保護者との信頼関係の築き方・学級経営

第４回報告

第４号　2025 年７月８日
OJT 担当　　山田将太

１．日時　　2025 年７月７日（月）
２．提案者　涌井先生
３．内容「学級経営・保護者対応について」

（１）学級崩壊を立て直すには？

今回は、涌井先生が実際に経験された引き継ぎ時のクラスの実態を示していただき「みなさんだったら、どのようにしますか？」ということを考えました。（以下事例）

事例①

具体的事例

②初任時、４年生。クラス変え無し。前任はベテランの厳しい女性の先生。恐怖の上に成り立つ規律。軍隊クラス。児童・保護者共に教員を品定めし、ベテラン以外は外れと思う。

【失敗例】同じように厳しくする。
→経験年数の違う先生と同じことをしてもうまくはいかない。理由や説得力の無い厳しい指導は反発を生むだけ

涌井先生の対応

事例②

具体的事例

②１年生の時に崩壊。教科書の内容をほとんどの児童が学習していない状態。ドリルなども白紙。

【失敗例】とにかく優しく対応し、長所を伝えるのみ。
→自分（我が子）の課題が見えず、学校や教師が悪かったというだけになる。

涌井先生の対応

事例③

具体的事例

③６年。毎年崩壊。前年度担任は退職。主幹が入るも２人とも体調を壊す。暴力的な児童が多く、騒いでいないといられない。

【失敗例】１年間で何とか立て直そうと思いすぎる。
→５年間崩れたクラスは、１年間での修復は難しい。

涌井先生の対応

このような学級に直面した時の涌井先生の対応は、添付の資料でご確認ください。

（２）立て直すための手順

１．原因分析と把握
２．信頼関係の再構築と自己肯定感を高める
３．保護者との連携

涌井先生は、困難な学級を担任する時、この流れを意識して４～６月の学級経営をされるそうです。

（３）まとめ

もしかしたら「涌井先生の学級経営は涌井先生だからできる」と考えられた先生もいらっしゃったかもしれません。しかし、それは涌井先生に限らず、どの先生にでも言えることなのではないでしょうか。

まず、先生の仕草や行動には、意識の有無にかかわらず、その先生の意図や思考が表れることは、昨年度の眞島先生のご提案の中にあったヒドゥンカリキュラムからも考えられます。言葉にしなくても、先生の考えは子どもたち・保護者にある程度は伝わってしまうということです。次に、先生の意図や思考についてですが、涌井先生はご提案の中で「尊敬する先生に教えてもらった」「尊敬する先生のまねをした」とおっしゃっていました。涌井先生も、他の先生方から影響を受けながら、ご自身の力量を高め、磨き続けてこられたということだと思います。そのように考えると、今回のように、他の先生の学級経営に学び、自分が良いと思ったことを積極的に取り入れていくことで、その先生らしさが洗練されていくと考えることができるのではないでしょうか。また、このように学んでいることは、言葉にしなくても子どもたち・保護者に伝わっていく可能性があるということでもあると考えられます。

涌井先生は、今回のご提案に際して「これが正解ということではない」と繰り返しおっしゃっていました。その時の子どもたち・保護者と、涌井先生ご自身のキャラクターを鑑みて対応を「選択」されているそうです。それは「学んだことをそのまま実行するだけでは、上手くいかない（場合がある）」という涌井先生のメッセージとも捉えられます。学んだことを自分なりに咀嚼し、考え「選択」していくことの重要性も涌井先生のご提案からは学ぶことができるのではないでしょうか。

【次回例会について】
日時　９月１６日(火)　提案者　眞島先生
内容　子どもと子どもがつながる学級づくり

第５回報告

第５号　2025 年９月 24 日
OJT 担当　　山田将太

１．日時　　2025 年９月１６日（火）
２．提案者　眞島先生
３．内容　子どもと子どもがつながる学級づくり
（１）なぜ「子どもと子どもがつながる学級づくり」を目指すのか
○教育基本法第１章第１条「社会の形成者として必要な資質」
○社会的背景
・Society5.0 時代・・・世界中とつながる一方でつながりが希薄
・シンギュラリティ（2045 年問題）・・・AI による仕事の代替など
・「小舟化する社会。そこでは、遭難しようが、沈没しようが、自己責任。確かだと思っていたつながりも次々と切れていく。だから、小舟はひとりでサバイブしなくてはならぬ。」（東畑 2025）
○非認知能力の育成の必要性

・自分を高める力・・・意欲，向上心，自信，自尊感情，楽観性など
・自分と向き合う力・・・自制心，忍耐力，レジリエンス（回復力）など
・他者とつながる力・・・コミュニケーション力，共感性，社交性，協調性など

→32 人みんなの個性で補い合う「みんなで 100 点」をめざす学級づくり

（２）眞島実践「子どもと子どもがつながる学級づくり」　※詳細は資料をご確認ください！
①学級経営の基盤→道徳通信（語り），男女仲良く，イメージキャラクター，○○総選挙ポスター
②ミニゲーム→ペアゲーム，グループゲーム，全体ゲーム，カードゲーム
③授業→子どもと子どもをつなぐ発問，えんぴつ会話，体育の補助（お手伝い），体つくり運動
フォークダンス
④承認文化を広げる活動→クラス会議，フリートーク，掲示板の活用（係活動，自学ノート）
誕生日メッセージカード，ほめ言葉のシャワー，SPY 大作戦，シークレットサンタ

今回の例会では，眞島先生が目指す学級像と，そのような学級を目指す理由，そのための手立てをご提案いただきました。最近は少なくなりましたが，少し前までは多くの学校で各担任が「学級経営案」を作成していました（現在は，自己申告書にその内容が包括されていると捉えられます）。どのような学級をつくっていくのか（目的）とそのために何をしていくのか（方法）を各担任が構想し，まとめていたのです。今回の眞島先生のご提案と６年１組の日頃の様子を照らし合わせて考えると**「明確な目的をもつこと」「その目的の理由と根拠を明確にすること」「子どもの実態に合わせた方法を選択・提示すること」「１年間の見通しをもつこと」**が学級経営においてどれほど重要か分かりました。

一方で「目的―内容」の関係や１年間の計画などを考えると「やってみよう！」という一歩目が踏み出せないということもあるかと思います。**まずは実践し，その反省を次に生かしていく**ということも，重要な学び方と考えられます。**（眞島先生は，いつでも相談に乗ってくださるそうです！）**

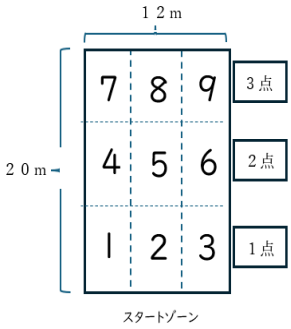
【質疑応答、感想によって深まったこと】
○（２）のような実践が、目の前の子どもと「合わない」と感じる場合はどうするのか。
→「身体接触がないものから、あるものへ」のように、子どもにとって抵抗の少ないものから徐々内容を発展させていく。その際できるようになったことや、良かったことを積極的に価値づけることを忘れない。
○SPY 大作戦やシークレットサンタは、何回くらいやっているのか。
→週１回（やらされ感を感じない程度、忙しい時は避ける）かつ学級の仲の良さが「中」以上の時にやる。早く効果を求めすぎると、教師も子どももつらくなる。

【次回例会について】
日時　10 月 14 日（火）　提案者　伊東先生　内容　ボール運動（ゲーム）※実技もあり！

第６回報告

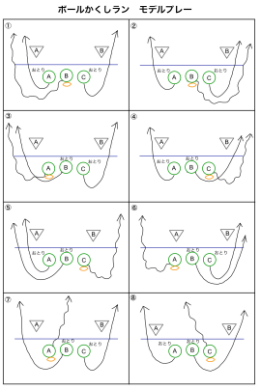
第６号　2025 年 11 月４日
OJT 担当　　山田将太

１．日時　　2025 年１０月３１日（金）
２．提案者　伊東先生
３．内容　体育　ボール運動領域　フラッグフットボール
（１）ルール説明（詳しくは別紙の資料をご覧ください）



はじめのルール
＜攻め＞
・スタートゾーンでボールを持った状態から始める。
・ボールを持っている人が、フラッグを取られずにどこまで侵入できたかが得点となる。
・１ターンに3回攻めを行う。ボールを持っている人がフラッグを取られるか、線を出た時点で１回の攻撃が終了となる。
・3回の攻めで得られた得点を合計する。
＜守り＞
・真ん中辺りで3点ゾーンの方を向いて待つ。攻めの「レディ」の声掛けとともに、スタートゾーンの方を向き、攻めの「ゴー！」の合図でフラッグを取りに行く。
・ボールを持っている人のフラッグが片方でも取れたら、その回の攻めを止めることができる。

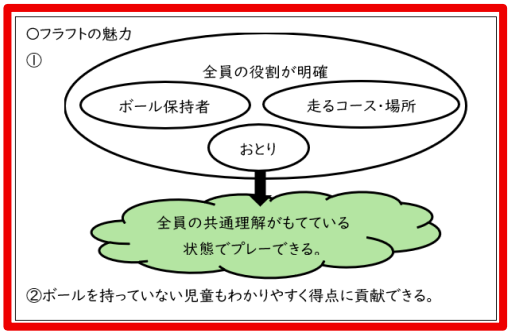
（２）実技研修
①２対１
まずは、２対１でどこまで侵入できるかというゲームを行いました。
・ボールを隠すこと
・なるべく速いスピードで攻めること
・仲間と共通理解をもって攻めること
これらの要素を学ぶことが重要だそうです。



②３対２
３対２がメインゲームです。モデルプレーから戦術を選び、守りにフラッグをとられずにどこまで侵入できるかを競います。モデルプレーから戦術を選び、役割を決める話し合いの時間をフラフトでは「ハドル」といいます。このハドルで、誰が、どこを通って攻めるのかを話し合います。

（３）昨年度行った実践について（提案資料より抜粋）

〇フラフトを選んだ理由（当時のクラスの実態より）
① 運動の得意・不得意の差が大きく、気持ちや意見が強い児童に自分の意見が言えずに合わせてしまう児童がいる。その様子が顕著である。
② ボール運動の経験が少なく、もっている能力で差が出る可能性がある。
③ 頭を使うことが好きで、その意欲を体育でも発揮させたい。



伊東先生は、以上のようなクラスの実態があったからこそ、フラフトを選んだのです。フラフトを選んだ理由は「フラフトの魅力」をご参照ください。

【質疑応答、感想によって深まったこと】
〇３対３は難しいのではないか
→確かに３対３は難しい。昨年度の実践でも３対２で（攻防のバランスが）ちょうど良かった。
〇身体接触がないか不安なのだが・・・
→フラッグをとることが接触の代わりになっている。そして、意外と子どもは接触しない。
〇ハドルで決めた動きではない動きをする子はいないのか。チーム編成やゲームは具体的にどのように行うのか。
→時数を重ねていくうちに、決めた戦術通りに動くようになっていく。そうじゃないと、得点できなくなっていくから。１チーム５人だったら、３人がゲームに出て、残りの２人は戦術を一緒にきめる。攻撃が１回おわったら順番に交代していく。

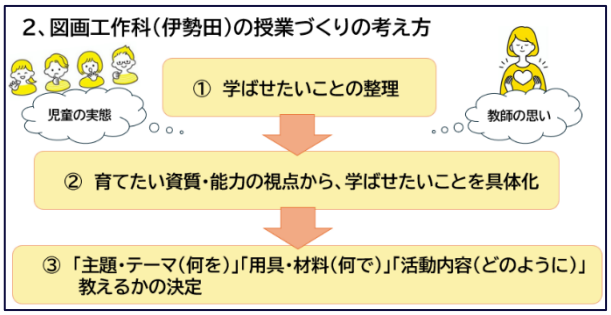
第７回報告

第７号　2025 年２月 25 日
OJT 担当　　山田将太

１．日時　　2026 年２月 17 日（火）
２．提案者　伊勢田先生
３．内容　授業づくりの考え方

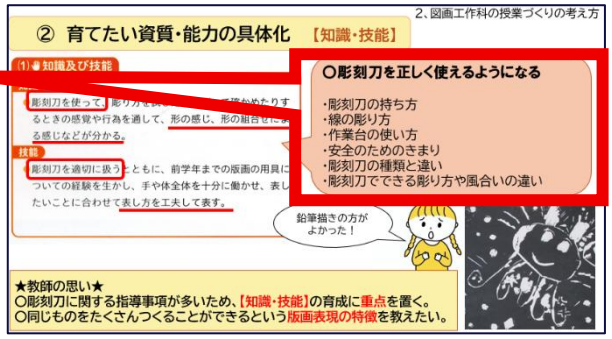
（１）授業づくりの考え方-版画表現の題材をもとに-

伊勢田先生は「授業づくり」を、右図のようなプロセスで行うとまとめています。その具体例として、版画表現の授業を示してくださいました。



① **学ばせたいこと**
育てたい子どもの姿を想定して「自分の言葉で」何を学ばせたいのかを考える。

② **育てたい資質・能力の視点から、学ばせたいことを具体化**
【知識・技能】【思考力・判断力・表現力等】【学びに向かう力・人間性等】という３つの観点で、学ばせたいことを具体化します。



③ **何を、何で、どのように教えるかの決定**
これまでの①②の過程で考えてきたことを、実際の指導法に落とし込んでいきます。

③「主題・テーマ（何を）」「用具・材料（何で）」「活動内容（どのように）」の決定

	教科書	アレンジ	決定の理由
主題・テーマ「何を」	板を彫って感じたことや、生活の中で感じたことから表したいことを見付ける。	直線を組み合わせた抽象的な模様	●失敗にとらわれずに、柔軟な発想で表現することができる。 ●直線を組み合わせるだけで、模様を簡単につくることができる。 ●彫刻刀の初心者でも、彫る活動を楽しむことができる。
材料・用具「何で」	B4～A3サイズの木板	18cm四方の発砲ポリ塩化ビニル素材のカラーボード	●繊維の流れがなくやわらかいため、少ない力で彫ることができる。 ●撥水性があるため、版を洗いやすい。 ●表面塗装により彫ったところがわかりやすい。 ●飽きない程度の作業量に調節できる。（サイズ）

（２）伊勢田先生の思い

教科書の版画表現のページには、いくつかの作品例が示されています。この作品例について伊勢田先生は「同じ授業内でこれらの作品がつくられることは考えにくい」と語りました。そして「表したいことが先にある」「つくりながら表したいことを見付けていく」という異なる授業展開があるとし、両者の良いところ・悪いところを整理されていました。この、良いところ・悪いところの判断は、教材の文化的な価値の視点や、過去の授業における子どもの様子などから行われていました。伊勢田先生は過去に行った版画の授業で子どもから「えんぴつでやりたかった」と言われてしまいました。その原因を分析して「何枚も刷ることができる版画の良さを実感させること」や「誰もが表したいことを見付けること」「技能をしっかりと身に付けさせること」を願って授業づくりを行ったそうです。

伊勢田先生は提案の最後に、このようなトライ＆エラーに授業づくりの面白さがあると語られました。さらに「自分が“面白い”と感じていないと“よさ”は伝えられない」と学ばせたい文化の面白さを教師自身が味わうことの大切さを述べられました。

【質疑応答、感想によって深まったこと】

○教材をアレンジすることについて、系統性を意識することも大切だと思った。また、何かを選んだことによって「選べなかったこと（クワガタ）」にも価値があると思う。
→系統性は意識している。この授業は彫刻刀をつかう１回目の授業だから使い方を学ばせることに重点を置いた。クワガタのような作品づくりは、次の学年の彫刻刀をつかった授業で取り組めるようにする。
○図工の授業での子どもの声掛けについて、言い過ぎるとその子の個性が消えてしまう。意識していることはあるか。
→子どもの思いを引き出してから、その思いに寄り添いながら声掛けをしている。
○特別活動も自由度がある。子どもにすべて任せると「放任」になってしまうから、どのように学ばせたいかを考えている。
子どもに「えんぴつの方がよかった」と言われて、授業を変えたというのが素晴らしいと思った。同時に、同じ学年だと次に生かそうと考えやすいが、学年が変わるとその難しさを感じる。学ばせたいことを、自分の言葉で整理するのは自分も大切だと思ったのでやってみたい。

終わりに

副校長 植田 美香

本年度、本校では「児童の粘り強さと自己調整力の育成 ―国語科指導を通して―」を研究主題に掲げ、1年間研究に邁進してまいりました。その歩みの中で、武蔵野大学講師、前目黒区立中目黒小学校校長の横溝宇人先生には、計4回にわたり多大なるご指導を賜りました。

横溝先生からは、『子どもを主語にする』という授業改善の視点を一貫してご提示いただきました。単元内自由進度学習や自己選択学習の実践事例を通し、教材研究や環境整備の重要性を再認識するとともに、指導の個別化が子どもの変容に直結することを深く学びました。先生の温かくも鋭いご助言は、教職員一人ひとりが従来の授業スタイルを脱却し、子どもたちの主体的な学びを支える伴走者へと転換する大きな原動力となりました。本冊子は、これまでの試行錯誤の軌跡をまとめたものです。ご多用の中、本校の研究に深く寄り添ってくださいました横溝先生に心より感謝申し上げますとともに、今後も「自ら学びを調整する子」の育成に、全教職員で取り組んでまいります。ありがとうございました。

＜ご指導いただいた講師の先生方＞

前目黒区立中目黒小学校校長	横溝 宇人 様
目黒区教育委員会事務局教育指導課指導主事	玉村 昌彦 様

＜研究に携わった職員＞ ◎研究主任 〇研究推進委員

校 長	秋山 美栄子	副校長	植田 美香
第１学年	〇山田 将太　菅井 絵美	第２学年	平山 かおり　金子 めぐみ　木本 沙織
第３学年	梶井 綾　木本 敬吾	第４学年	〇涌井 慶子　浅利 元貴
第５学年	〇立田 康徳　星野 光子　山田 香柏	第６学年	◎眞島 宏明　伊東 雅栄
算 数	〇平野 雄一	図 工	〇伊勢田 美咲
音 楽	森田 琴美　森 朋子		

駒場